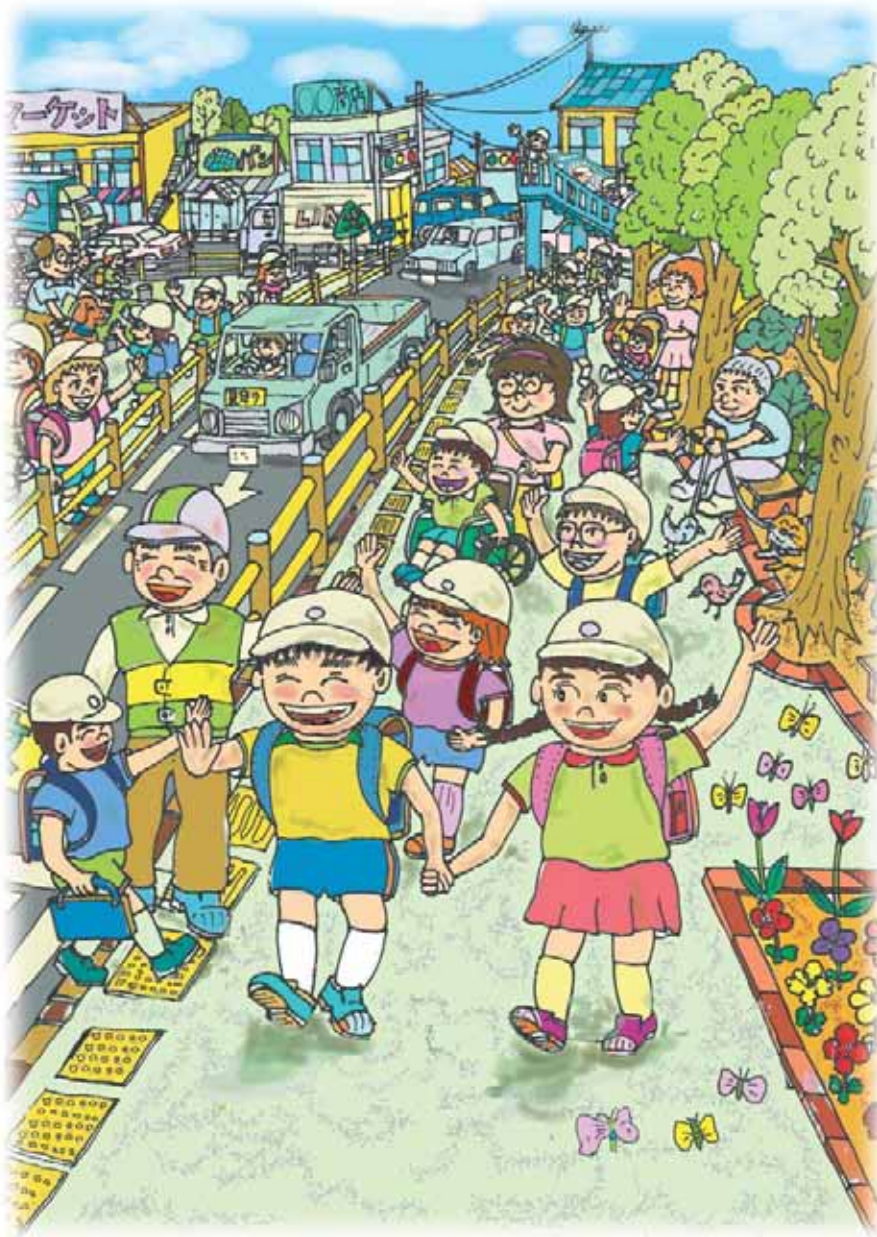


ほほえみ 活用の手引き



目 次

小学校低学年用教育資料『ほほえみ』の改訂にあたって	1
小学校低学年用教育資料『ほほえみ』及び活用の手引きの編集について	2
小学校低学年用教育資料『ほほえみ』の活用にあたって	4

資 料 名	分	類	領 域	学 年	ページ
たのしく あそぼう	3 -	- ア	人間関係の活性化	特別活動	1・2 5
どうしたの？	3 -	- ア	人間関係の活性化	道 徳	1 6
たのしい えんそく	3 -	- ア	市民意識の醸成	道 徳	1 7
ゆめみたい	3 -	- イ	個性・能力の伸長	道 徳	1 8
どうしてだろう	2 -	- ア	差別と人権問題についての学習	特別活動	1・2 9
るすばん	3 -	- ア	人間関係の活性化	道 徳	1・2 10
しあわせはこべるように	3 -	- イ	社会参加の促進	特別活動	1・2 11
いっしょに あそぼ	2 -	- ア	差別と人権問題についての学習	道 徳	2 12
はるかのひまわり	2 -	- ア	生命の尊厳についての学習	道 徳	2 13
見まもり隊のおじいさん・おばあさん	3 -	- ア	人間関係の活性化	道 徳	2 14
資料編					15

資 料 名	分	類	領 域	学 年	ページ
2 すてきな 一日	3 -	- ア	市民意識の醸成	特別活動	1 21
3 まほうの ことば	3 -	- ア	人間関係の活性化	道 徳	1 22
4 ともだち 大すき	3 -	- イ	個性・能力の伸長	特別活動	1 23
5 とんとん しっ	2 -	- ア	差別と人権問題についての学習	道 徳	1 24
6 なまえ	2 -	- イ	人権の歴史と思想についての学習	道 徳	1 25
7 あやかちゃん あそぼ	2 -	- ア	差別と人権問題についての学習	道 徳	1 26
8 となりの たぬき	2 -	- ア	差別と人権問題についての学習	道 徳	1 27
9 ないと こまるもの	2 -	- イ	人権の歴史と思想についての学習	特別活動	1 28
10 しゅわで おはなし	3 -	- ア	人間関係の活性化	特別活動	1・2 29
11 うれしいね たのしいね	3 -	- イ	社会参加の促進	生 活	1・2 30
12 大きく なったら	3 -	- イ	個性・能力の伸長	特別活動	1・2 31
13 はずかしがりやの かばくん	3 -	- イ	個性・能力の伸長	道 徳	1・2 32
14 ぼくって たからもの	2 -	- ア	生命の尊厳についての学習	道 徳	1・2 33
16 自分らしく	2 -	- ア	差別と人権問題についての学習	特別活動	1・2 34
17 あなたなら	2 -	- ア	差別と人権問題についての学習	道 徳	2 35
18 かぞくは ひとつ	3 -	- イ	個性・能力の伸長	道 徳	2 36
19 わたしは わたし	2 -	- イ	人権の歴史と思想についての学習	特別活動	2 37
20 ちっとも おもしろくない	3 -	- イ	社会参加の促進	特別活動	2 38
21 パクさんと いっしょに	3 -	- ア	人間関係の活性化	道 徳	2 39
22 さがして みよう	2 -	- イ	人権の歴史と思想についての学習	生 活	2 40
23 ふれあいまつり	3 -	- イ	社会参加の促進	道 徳	2 41
24 あったかいね	2 -	- ア	生命の尊厳についての学習	生 活	2 42
25 小さな カレンダー	2 -	- ア	生命の尊厳についての学習	道 徳	2 43
26 ぞうれっしゃが やってきた	2 -	- ア	生命の尊厳についての学習	国 語	2 44
資料編 1 おおかげに ふきとばされないようにね					1・2 46
15 なかよし すぐろく					1・2 46
27 「4ひく1は」					1・2 47

委員名簿	49
------	----



小学校低学年用教育資料『ほほえみ』の改訂にあたって

平成 23 (2011) 年 3 月 11 日、三陸沖を震源地としてマグニチュード 9.0 の地震が発生し、東北地方から関東地方にかけて太平洋沿岸部に壊滅的な被害をもたらされました。特に、地震による大津波は、多くの尊い生命を奪いました。更に、大震災に伴う原発事故による放射線被曝へのいわれのない偏見や風評の問題など、人権にかかわる新たな課題が生じています。

震災以外にも、人権にかかわる社会の状況の変化に伴い、児童虐待やDV、いじめ、インターネットによる人権侵害など、子どもたちの生命を脅かす様々な課題が山積しています。改めて、生命尊重の大切さを痛感するとともに、人権教育の重要性が今問われています。

兵庫県教育委員会においては、平成 10 (1998) 年 3 月に「人権教育基本方針」を策定し、人権という普遍的文化を築くことを目標に人権教育を推進してきました。そして、この方針に基づき、平成 13 (2001) 年 3 月に小学校低学年用教育資料『ほほえみ』を作成するとともに、各学校において効果的に活用し、自己実現と共生をめざす人権教育の充実を図ってきたところです。小学校低学年用教育資料『ほほえみ』については、児童の発達段階や特性を踏まえ、人権尊重の精神や自尊感情をはぐくみ、人権教育の基礎を培う内容で構成されており、作成当時としては、非常に斬新な人権教育資料であり、その理念は今なお十分に耐えうるものです。

しかし、作成から 10 年が経過し、この間、国においては、教育基本法の改正や学習指導要領の改訂、「人権教育の指導方法等の在り方について [第三次とりまとめ]」の公表などがありました。また、県においては、「人権教育及び啓発に関する総合推進指針」や「外国人児童生徒にかかわる教育指針」などが策定されました。

このような国や県の動向を踏まえ、小学校低学年用教育資料『ほほえみ』をより使いやすく、いっそう学習効果が期待できる内容にしていくため、改訂を行いました。改訂にあたっては、改正教育基本法、小学校学習指導要領、「人権教育の指導方法等の在り方について [第三次とりまとめ]」等の趣旨に即し、人権を尊重する豊かな心が育ち、「生きる力」の育成につながる観点から編集を行いました。

学校における人権教育は、各学校の児童や地域の実態を踏まえるとともに、発達段階に応じて系統的に実践するものです。小学校低学年において、人権教育の基盤である生命尊重の精神や豊かな人間関係づくりを含む人権感覚を育成していくことは、大変重要であると認識しています。その意味でも、本資料が、各学校における人権教育の充実に活用されることを期待しています。

なお、本書の編集にあたり、ご尽力いただきました人権教育資料検討委員会並びに人権教育資料作成委員会の委員の皆様方に対し、心からお礼申し上げます。

平成 24 年 3 月

兵庫県教育委員会



小学校低学年用教育資料『ほほえみ』及び活用の手引きの編集について

改訂について

平成 13 年 3 月に作成した小学校低学年用教育資料『ほほえみ』及び活用の手引きの改訂にあたっては、以下のように基本方針、視点、内容を設定し、すすめました。

1 改訂の基本方針

「教育基本法」(平成 18 年 12 月改正)に掲げられた教育の理念を踏まえ、「小学校学習指導要領」(平成 20 年 3 月改訂)の趣旨に即した内容としています。

「人権教育の指導方法等の在り方について [第三次とりまとめ]」(平成 20 年 3 月)の趣旨に即し、人権を取り巻く今日的な課題に対応できる内容としています。

「兵庫県人権教育及び啓発に関する総合推進指針」(平成 13 年 3 月)を踏まえ、「人権教育基本方針」(平成 10 年 3 月)に基づき、「ひょうご教育創造プラン」(平成 21 年 6 月)に即した兵庫らしい特色ある内容としています。

2 改訂の視点

資料全体について

ア 「教育基本法」、「小学校学習指導要領」、「人権教育の指導方法等の在り方について [第三次とりまとめ]」等との整合性を保持しています。

イ 「人権教育基本方針」に基づき、「小学校学習指導要領」に示された各領域のねらいと内容に即して編集しています。

個々の資料について

ア 豊かな心情を育むための「文章教材的な資料」

児童の心を揺さぶる力があるかという視点からだけでなく、時代背景や法改正に照らして、ふさわしい内容としています。

イ 主体的・活動的な学びを促す「活動事例的な資料」

参加型等の手法が、指導方法として適切であるという視点に加え、事前指導・事後指導に活用しやすい内容にしています。

3 改訂の内容

教育資料

ア 「人権教育基本方針」の推進項目になかった資料を新規に作成しています。

イ 兵庫の特色(ひと、もの、こと)を生かした資料や震災の教訓等を引き継ぐ資料を新規に作成しています。

ウ これまでの教育資料は十分使用できる内容であるため、引き続き活用することは可能とします。

活用の手引き

ア 新規に作成した教育資料に対応した指導例を作成しています。

イ これまでの指導例を全面的に見直しています。

ウ これまでの指導例も引き続き活用することは可能とします。

編集について

1 編集方針

これまでの小学校低学年用教育資料『ほほえみ』の編集方針を引き継ぎ、「人権教育基本方針」に基づき、各教科や道徳の時間、特別活動等における活用を視野に入れつつ、小学校学習指導要領に示された各領域のねらいと内容に即して編集しています。

2 内容

児童が人権を身近に考えられるよう、兵庫県にゆかりのある「ひと・もの・こと」を積極的に取り上げています。

ア 阪神・淡路大震災を題材にした新資料を2編作成し、「兵庫と東日本大震災被災地を結ぶ絆」について、今後、中・高学年用教育資料にも発展させていくことをねらいとしています。

イ 日頃お世話になっている「地域の見守り隊」を題材とした新資料を1編作成し、生活体験に基づく「気づき」から登場人物の言動に迫ることをねらいとしています。

ウ 県内児童の作文等を素材にした新資料を、3編作成しています。

人権教育の基盤である生命尊重や豊かな人間関係づくりにつながる新資料を、4編作成しています。

3 構成

教育資料（右綴じ）

10編を集録しています。

活用の手引き（左綴じ）

ア 指導例編

各教育資料には、指導者用として指導例を提示していますが、児童や学級の実態やこれまでの学習の積み重ね等を踏まえて、指導者が創意工夫しながら指導計画を作成することが大切です。

また、指導にかかわる評価については、児童や学校、地域の実態を踏まえ、人権教育を通して育てたい資質や能力を明確に定めたいうで、適切に行うことが重要です。具体的には、学習状況や成果などについて、肯定的な児童観に基づき、児童のよい点、学習に対する意欲や態度などを踏まえて適切に評価することが大切です。なお、人権教育の成果は、すぐに現れるものではないため、系統的な指導を十分留意する必要があります。

評価の観点として、例えば次のようなものが考えられます。

- ・ 学習に主体的に取り組み、課題の解決に向けて積極的に取り組もうとする実践的な意欲や態度を身につけることができたか。
- ・ 学習活動を通しての気づきを大切にし、自分とのかかわりで人権課題をとらえ、日常生活の変容につなげることができたか。
- ・ 個別的な人権課題の理解にとどまらず、普遍的な視点から人権の大切さを認識するなど、人権についての学びを深めることができたか。

イ 資料編

指導者が教育資料にかかわる認識を深めるための参考資料や、児童の学習を効果的に支援するためのワークシートを掲載しています。

4 その他

兵庫県教育委員会事務局人権教育課ホームページに教育資料等を掲載していますので、ダウンロードして利用してください。

<http://www.hyogo-c.ed.jp/jinken-bo/index.html>

教育資料、挿絵、指導例、ワークシートのデータ

紙芝居形式データ

教育資料「たのしい えんそく」や「どうしたらいいかなあ」は、直接パソコンから電子黒板等に紙芝居形式で投影できます。



小学校低学年用教育資料『ほほえみ』の活用にあたって

1 児童の発達段階を踏まえた指導方法の工夫

「人権教育の指導方法等の在り方について〔第三次とりまとめ〕」では、「学校において人権教育に取り組むに際しては、児童生徒が心身ともに成長過程にあることを十分に留意した上で、それぞれの発達段階に即した指導を展開することが重要である。」としています。その中で、小学校低学年（小学校1～3学年）の発達段階に即した指導方法の工夫として、

想像力、言葉による理解力、認識力が次第に育ってくる。抽象的な思考もできるようになる。また、生活の場を離れて、いわば時空を越えて、他者や歴史的な事象にも思いを馳せることができるようになってくる。ただし、まだ幼児期の特性も残っている。

このような特性を踏まえて、人権教育においても、生活体験に基づく「気付き」から想像力や認識力に訴えて深い理解に導くような配慮が必要である。また、絵本やお話の本などを活用することで、想像力を育てることも大切である。

と述べられています。

今回の小学校低学年用教育資料『ほほえみ』の改訂において、他者の痛みや感情を共感的に受容できるための想像力や感受性を育てることをねらいとした文章教材的な資料を新たに作成しています。また、当課HPからデータをダウンロードして絵本や紙芝居のように使うことができますので、指導者の創意工夫で児童の発達段階に応じたより効果的な指導が可能となります。

2 児童等の実態に即した指導方法の工夫

各教育資料の活用については、掲載している指導例にとらわれず、常に児童や学級の実態等を踏まえ、十分に検討を重ねてよりよい指導案を作り出していくことが大切です。

教育資料によっては、指導例に例示しているものとは別の視点や異なる領域で扱うこともできます。文章教材的な教育資料であっても体験を取り入れるなど展開を工夫したり、児童や学校、地域の実態や課題にあった資料を新たに開発するなど、指導者の創意工夫のある取組を期待します。

指導例について

<分類>	「人権教育基本方針」の内容項目による分類を示しています。
<領域>	教科、道徳、特別活動（学級活動）の別を示しています。 道徳については、主として関連のある内容項目を示しています。
<ねらい>	各領域における目標や活動の内容に即して記しています。
<趣旨>	主題等と人権教育との関連、教育資料の概要やポイントなど、指導にあたっての基本的な考え方や留意点など、特に必要なものについて挙げています。
<配慮事項>	指導にあたって、指導者（教師）が知っておくべきことや気をつけなければならないことなど、特に配慮すべきことを記しています。
<参考>	学習を深め、または広げるために参考となる資料や教育資料の解説・補充等を記しています。

	分類	3 - - ア	資料名	たのしく あそぼう	学年	1・2年	領域	特別活動（学級活動）
--	----	---------	-----	-----------	----	------	----	------------

1 ねらい

友だちとのかかわりを楽しみながらゲームをする。

2 趣旨

なかよしじゃんけんでは、いろいろなじゃんけんを通して、相手の様子をじっくり見ることや、相手と気持ちを合わせて取り組むことを体験させる。また、じゃんけんでは、「勝つ」手を出すことが当たり前だという思い込みがあると、なかなか意識を変えられないことにも気づかせる。

いすわけあいゲームでは、みんなが座れるように協力し合いながらゲームをすすめるなかで、仲良く譲り合う心情を育てる。

3 配慮事項

ゲーム終了後、振り返りの時間をもち、気づきや感想を全体に広げる。

表情ワーク（幼稚園用教育資料『ほほえみ』に掲載 当課HPからダウンロード可）を活用し、今どんな気持ちかを聞くこともできる。

4 展開例

【なかよしじゃんけん】

教師対子どもたち全員で後出しじゃんけんの練習をする。後出した方が、次の から の方法でうまく手を出せば成功。

後出し勝ち 後出し負け 後出しあいこ

2人組になって、交互に ~ をする。

いっしょに手を出すじゃんけんでは、相手の気持ちに合わせながら、あいこになるように挑戦してみる。

ゲームを通しての気づきや感想を交流する。

【いすわけあいゲーム】

人数分より一脚少ないいすを用意する。

音楽がとまった後、2人で1つのいすに座るなど、全員が座れば成功。

いすを減らしていき、みんなでどこまで座れるか挑戦する。

いすが減ってくると無理な体勢をとってしまうことがあるので、けがのないよう注意する。

ゲームを通しての気づきや感想を交流する。

5 参考

上記ゲーム以外に、人権学習の導入等で子どもたちの心をほぐす次のようなアイスブレイクもある。

【バースデイライン】

- ・話をせずに、1月1日を先頭に誕生日順に並ぶ。
- ・言葉以外のコミュニケーションをつかって伝え合う。

【ドキドキ・アイランド】

- ・床の上に新聞紙を一枚おき、その上にグループ全員が乗る。
- ・グループの代表者が教師とじゃんけんをして、負けると新聞紙を半分に折り、その上に全員が乗るようにする。だれかの体が床に着くとそのグループはおしまい。

【仲間はずれかな】

- ・教師がテーマ（外見からはわからないこと）を出し、同じ仲間を見つけてグループをつくる。
例）好きな動物、好きな給食、きょうだいの数

【なかよし動物園】

- ・動物の絵のカードを箱に入れておき、一人一枚ずつ選ぶ。
- ・互いにカードを見せずに、鳴き声や動物のまねをして仲間を集める。
- ・つくりたいグループの数だけカードを用意しておく、グループ分けにつながる。

	分類	3 - - ア	資料名	どうしたの？	学年	1年	領域	道徳	2 -
--	----	---------	-----	--------	----	----	----	----	-----

1 ねらい

表情や行動から相手の気持ちをよみとり、相手のことを考えた言葉かけをしたり、行動したりしようとする。

2 趣旨

この資料では、困っているゆうきさんの気持ちが和らぐまでに、あいさつをきっかけにふだんと様子が違うことに気づく、「どうしたの？」とたずねる、理由を聞いて、「いっしょにれんしゅうしよう」と声をかける、という「わたし」の三つの気づきや言葉かけが出てくる。

「どうしたの?」「いっしょに れんしゅうしよう」という言葉は、相手のことを思いやり、すすんで人と関わろうとする言葉である。ゆうきさんの「かおが ぱっと あかるくなった」から、相手もうれしくなるとともに言葉かけたわたしもうれしくなっていることをおさえ、相手の気持ちを考えた言葉かけや行動を考えさせる機会とする。

3 配慮事項

資料中の言葉は一つの例として提示し、子どもたちの発言を大切にしたい。

4 展開例

学 習 内 容	指 導 上 の 留 意 点
1 あいさつについての経験を発表する。	・お互い元気よくあいさつをしたら、気持ちがよくなることを確認させたい。
2 資料を読み、わたしの気持ちを考える。 元気がないゆうきさんに対するわたしの気持ちを考える。 ゆうきさんの様子を見て、わたしはどう思ったでしょうか。	・ゆうきさんがふだんの様子と比べて元気がないことに気づかせる。そこから、何か困ったり、悩んだりしていることがあるのではないかと推測させたい。
・あれっ、元気がないな。 ・ゆうきさん、いつもとちがうなあ。 ・何があったかのかな。 ゆうきさんからわけを聞いた時のわたしの気持ちを考える。 ゆうきさんの話を聞いて、わたしはどう思ったでしょうか。	・わたしが、ゆうきさんの気持ちに共感していることをつかませる。
・一人でがんばってたんだらうな。 ・できるようになりたいんだらうな。 ・できなくてくやしいだらうな。 明るくなったゆうきさんの顔を見たわたしの気持ちを考える。 明るくなったゆうきさんの顔を見て、わたしはどんな気持ちになったでしょうか。	・ワークシートを用い、わたしの気持ちを書かせる。 ・ロールプレイを通じて、発表させる。 ・明るくなったゆうきさんを見たわたしもうれしくなっていることをおさえる。
3 先生の話聞く。	・教師が学級の中で見つけた相手のことを考えた言葉や行動を話すが、児童が思いつくものがあれば発表させたい。

	分類	3 - - ア	資料名	たのしい えんそく	学年	1 年	領域	道徳	1 -
--	----	---------	-----	-----------	----	-----	----	----	-----

1 ねらい

身近な暮らしの中で、自分の過ちに気づいた時には、素直に改めようとする誠実な態度を育てる。

2 趣旨

低学年においては、集団の一員としての自覚をもち、自分の考えや思いを表現したり、行動に表したりしようとする態度を育てることが大切である。

本資料では、自分の過ちに気づき、素直に改めようとする主人公の心情に寄り添わせ、自分の思いを表現し、行動に表す誠実な態度の大切さをとらえさせる。

3 配慮事項

学校行事や生活科の学習に関連させて指導する。

挿絵を1枚ずつの紙芝居にして児童に読み聞かせてもよい。(本文は資料編 P.15・挿絵は1枚ずつダウンロード可)

自然愛護の観点からの指導も考えられる。

4 展開例

学 習 内 容	指 導 上 の 留 意 点
<p>1 遠足に行った経験を話し合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自然の中では、解放感にひたり、気持ちが大きくなることをおさえ、クマくんの気持ちに共感させたい。
<p>2 資料を読み、クマくんの気持ちを考える。 夢中でおにごっこをしたり、大はしゃぎでお弁当を食べたりしているクマくんの気持ちを考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・紙芝居風に挿絵を見せながら、話の筋を捉えさせる。
<p>遠足に来たクマくんは、どんな気持ちでしょうか。</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・気持ちいいなあ。 ・思いっきり走れるぞ。 ・ああ、おいしい。 <p>夢の中で泣いている花や木を見たクマくんの気持ちを考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・クマくんの行動について、周りを全く気にせず楽しんでいて、悪気がないことをつかませる。
<p>泣いている花や木を見たクマくんは、どんな気持ちでしょうか。</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・知らなかった。 ・痛かったんだね。 ・ぼくが悪かったよ。 <p>目を覚ましたクマくんの気持ちを考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・花や木が傷ついたり、泣いたりしている理由を考え、クマくんの行動が原因であることをとらえさせる。
<p>目を覚ましたクマくんは、片づけをしながら、どんなことを考えていたでしょう。</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・傷つけてしまって、ごめんなさい。 ・これからは気をつけます。 ・自分のことばかり考えていた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自然を汚したり、傷つけたりしたことを素直に反省し、ごめんなさいとつぶやいているクマくんに共感させたい。
<p>3 クマくんに手紙を書く。</p>	
<p>クマくんに手紙を書こう。</p>	
	<ul style="list-style-type: none"> ・クマくんに手紙を書くことで、自分で考えて行動することの大切さを捉えさせる。

	分類	3 - -イ	資料名	ゆめみたい	学年	1年	領域	道徳	1 -
--	----	--------	-----	-------	----	----	----	----	-----

1 ねらい

友だちと関わりながら物事に挑戦し、やり遂げようとする。

2 趣旨

「周囲との関わりの中で自分のよさに気づくこと」は、自尊感情を形成する重要な要素である。周囲の温かいまなざしの中で苦手なことに挑戦し達成感を味わう「わたし」の姿から、自信をもちつつある「わたし」の気持ちについて考えさせる。

指導にあたっては、経験を通して「わたし」が成長していく姿を、それを見守り励ます友だちとの関わりの中でとらえさせるようにしたい。

3 配慮事項

指導時期や学級の実態に応じて、プール以外の場面を設定して資料を提示することも考えられる。

4 展開例

学 習 内 容	指 導 上 の 留 意 点
1 苦手なことについて発表する。 みなさんは、苦手なことがありますか。	・だれにでも苦手なことがあるということを認め合いながら、様々な経験を想起させる。
2 資料を読み、きのうのわたしの気持ちについて考える。 きのうのわたしはどんな気持ちだったのでしょうか。 ・水がいや。 ・水がこわい。	・昨日まで水をこわがっていたわたしが、今日やっともくれたということをおさえる。
3 わたしの喜びについて考える。 「もぐれそうな きがしてきた」のは、どうしてでしょう。 ・友だちが励ましてくれたから。 ・みんなといっしょだから。 ・勇気がわいてきたから。	・挿絵を手がかりに、どきどきしている中で勇気づけられているわたしの様子を想像させる。
「ゆめみたい」と言ったわたしは、どんな気持ちだったでしょう。 ・「がんばったね。」「うん、がんばったよ。」 ・「よかったね。」「ありがとう。」 ・「やったあ。」「わたしもううれしいよ。」	・ワークシートにわたしとまいさんの言葉を表現させる。 ・わたしの喜びの背景に友だちの温かいまなざしがあつたことに目を向けさせる。
4 挑戦したいことについて話し合う。 これからどんなことに挑戦したいですか。	・一人一人の発表に対して周囲から励ましの言葉をかけさせ、温かい雰囲気学習活動を終えるようにする。

5 参考 原典「ひょうご'09 こどもの詩と絵 第30集」(1年生作品 改作)

	分類	2 - - ア	資料名	どうしてだろう	学年	1・2年	領域	特別活動(学級活動)
--	----	---------	-----	---------	----	------	----	------------

1 ねらい

人を性差のみによって判断することの誤りに気づき、個性を認め、友だちと協力しようとする。

2 趣旨

低学年においては、性別にとらわれず抵抗なく活動している場面も多いが、この時期から次第に遊びや生活の中で性別による役割を固定化した考え方(イメージ)があらわれてくる。これは、まわりのおとなたちの意識の影響も大きい。ここでは、男女共同参画社会を担う一員としての考え方や資質を養う。

日頃の生活の中で、性別による役割や必要のない区別を強いられた経験を思い出させながら、性差だけで決めつけることの不当性を見抜ける力を養う。

3 配慮事項

教師自身が「隠れたカリキュラム」として、いつのまにか「女らしさ・男らしさ」を子どもに求めていたり、学級の役割を決めるときに性別役割分担意識にとらわれたりしていないか、まず振り返ることが大切である。

家庭での保護者の指導を否定することのないように配慮したい。

性同一性障害などセクシャルマイノリティの児童やその家族がいる場合、状況や保護者の願いなどを十分に把握し、連携を保ちながら指導することが必要である。

4 展開例

学 習 内 容	指 導 上 の 留 意 点
<p>1 資料を読んで、自分が性別で決めつけられた経験を話し合う。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">今まで、「女の子は…」や「男の子は…」と、言われたことはありますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「女の子なんだから、食器運びを手伝って。」と言われたよ。 ・「男の子なのに、泣いたらだめ。」と言われたよ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の生活を想起させ、意識を高める。 ・身近な生活体験から、意見を発表させる。
<p>2 言われたときの気持ちについて、話し合う。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">そのとき、どんな気持ちになりましたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・女の子だけが食事の後片づけをするのは、おかしいと思うな。 ・ぼくだって泣きたいときもあるよ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・性別により不必要な区別をされることのおかしさに、気づかせたい。 ・「女・男らしく」という性差のみによる捉え方でなく、「自分らしさ」を大切にしようとする生き方や、友だちの個性を大切にしようとする意欲に結びつけたい。
<p>3 学級の課題に気づき、その解決に向けて話し合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学級に事案がある場合、個人攻撃にならないように配慮する。

5 参考

- ・ 小学校低学年用人権教育資料『ほほえみ』の 16『自分らしく』につなげていくこともできる。
- ・ 展開の途中で、自分たちの中に「女(男)の子は…」という刷り込みがされている場合も多いことに気づかせる活動もできる。

	分類	3 - - ア	資料名	るすばん	学年	1・2年	領域	道徳	2 -
--	----	---------	-----	------	----	------	----	----	-----

1 ねらい

様々な立場にいる友だちの願いに気づくとともに、友だちと仲よくし、助け合おうとする。

2 趣旨

自分にとっては当たり前での暮らしの時間に、友だちによっては、全く違った暮らしをしている子がいることに気づかせる。

前向きな友だちの姿に共感させ、ともに生きていこうとする態度を育てる。

3 配慮事項

学級内に一人親家庭の児童が在籍していることは十分考えられる。その児童が興味半分に見られたり、疎外されたりすることのないように配慮する。

4 展開例

学 習 内 容	指 導 上 の 留 意 点
<p>1 資料を読み、るすばんをするぼくの気持ちについて考える。</p> <p style="text-align: center;">ひとりであるすばんをしているぼくは、どんな気持ちでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・さびしいなあ。 ・お母さん、早く帰ってきてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・テレビを見たり、遊んだりしていても落ち着かない気持ちや、お母さんと遅い時間まで会えない寂しさに共感させる。
<p>2 がんばっておきるぼくの気持ちを考える。</p> <p style="text-align: center;">ねむいけど、ぼくは、どんな気持ちでおきるのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おくれるのがいやだからがんばるぞ。 ・学校がすきだから休みたくない。 ・みんなといっしょに勉強したい。 	

5 参考

平成 15 (2003) 年度当時、兵庫県内の小学校 2 年生の児童の作品である。部落差別問題の資料として使用することも可能だと思われる。原文は次のようになっている。

ぼくは、ときどきやかんほいくにいけます。テレビをみたり、あそんだりしています。九じや十じぐらいまで、おかあさんをまっています。つぎの日、がっこうに行くとき、ねむいことがあります。でも、がんばっておきます。おくれるのがいややからです。がっこうがすきやからです。

かいほうがつきゅうで、ねむくなることもあります。おはなしがながくて、きいているのがしんどくなるからです。そんなときは、かおをあらいます。いっぱいはっぴょうして、げんきになれるようにがんばります。

	分類	3 - -イ	資料名	しあわせはこべるように	学年	1・2年	領域	特別活動(学級活動)
--	----	--------	-----	-------------	----	------	----	------------

1 ねらい

震災とボランティアについて理解しようとし、人と人がつながり合うことの大切さに気づく。

2 趣旨

東日本大震災や阪神・淡路大震災の様子を知り、厳しい状況の中でも人々がつながり合い支え合っていたことに気づかせる。

「しあわせ運べるように」を歌うことを通して、毎日を大切に生きようとするこことやつながり合うことのすばらしさに共感するようにしたい。

3 配慮事項

防災教育副読本「あすにいきる」などの教材や写真を用いて、震災の様子を捉えるようにする。子どもたちや学校・地域の実情に合わせて、学習したことを日々の活動や支援活動につなぎたい。

震災についての保護者や地域の実態・考えを把握した上で学習を進め、「ふるさと」に戻れない状況の子どもたちがいることに配慮する。

4 展開例

学 習 内 容	指 導 上 の 留 意 点
<p>1 「しあわせ運べるように」の歌を聞き、この歌がつくられたわけを知る。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">「しあわせ運べるように」の歌は、どのようにしてつくられたのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 阪神・淡路大震災のときにつくられた。 ・ まちや人がもう一度元気になるようにねがいをこめて、つくられた。 <p style="border: 1px solid black; padding: 2px; text-align: center;">東北地方の地震は、どんな様子だったのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 津波でまちが水びたしになった。 ・ たくさんの家や車が流された。 ・ たくさんの人がなくなった。 ・ みんなで食事を作って分け合っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 写真などの資料を手がかりにして、阪神・淡路大震災の様子やこの歌がつくられた背景を伝える。 ・ 東日本大震災をはじめ、さまざまなまちや国の復興・幸せを願って、この歌が歌われたことを伝える。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 東日本大震災について聞いたこと・知っていることを発表させる。 ・ 教師が写真などを使って補足説明し、被害の大きさだけでなく、人々が支え合う様子に目を向けるようにしたい。
<p>2 「しあわせ運べるように」の歌にこめられている気持ちを考える。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">「しあわせ運べるように」の歌は、どんな気持ちをこめて歌ったらよいでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ みんなに元気を出してもらいたい。 ・ まちがもとどおりになってほしい。 ・ みんなで力を合わせてがんばろう。(着目したい歌詞例) ・ つよいこころ ・ つよいきずな ・ まいにちをたいせつに ・ ささえあうこころ ・ あしたへのきぼう ・ みらいをゆめみ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教材文や歌詞を読んで、歌にこめられた気持ちを考えるように投げかける。 ・ 子どもたちなりの言葉で、人々の「絆」や「支え合い」「強さ」「やさしさ」「希望」などを表現したり感じたりできるようにしたい。
<p>3 「しあわせ運べるように」の歌を歌う。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px; text-align: center;">気持ちをこめて「しあわせ運べるように」を歌いましょう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 歌うことを通して、毎日を大切に生きようとする気持ちや互いに支え合う絆の大切さに共感させるようにしたい。 ・ 日々の活動や支援活動にもつなぎたい。

	分類	2 - - ア	資料名	いっしょに あそぼ	学年	2 年	領域	道徳	1 -
--	----	---------	-----	-----------	----	-----	----	----	-----

1 ねらい

弱い立場にいる友だちの願いや思いに寄り添うことができ、誰とでも仲よく遊ぶことの大切さを知る。

2 趣旨

自己主張が苦手で、なかなか意見を言い出せない友だちの願いや思いに気づかせ、自分のこととして悩みを共有しようとする心を育てる。

集団の中に入りづらい友だちをいつの間にか疎外していたり、心ない言葉をかけていたりしている子に対して、自分ならどのようなはたらきかけができるか、よりよい人間関係をつくるにはどうしたらいいか考えさせる。

3 配慮事項

児童が理解しやすいように、挿絵を紙芝居のように提示しながら、本文（資料編 P.17）を読んでもよい。

挿絵を提示する場合、登場人物を把握しにくいならば挿絵に名札をつける。

4 展開例

学 習 内 容	指 導 上 の 留 意 点
<p>1 資料の絵を見ながら全容を把握する。</p> <p>2 の場面から、わたしはどんな気持ちなのかを考える。</p> <p style="text-align: center;">わたしは、どんな気持ちで遊んでいるのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なつみちゃんとも一緒に遊びたいなあ。 ・どうして一緒に遊んじゃだめなのかなあ。 ・わたしもはるちゃんと遊んでもらえなくなるかもしれないから、なつみちゃんと遊べないなあ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・挿絵を提示しながら、本文を読んで全容を把握させる。 ・強い立場のはるちゃんと弱い立場のなつみちゃんとの人間関係を把握できるよう、二人の言動に着目させる。 ・「なんか変な気持ち」になっている私の様子に着目させ、自分たちだけが楽しく遊んでいても、誰かが寂しい思いをしていると、本当に楽しむことができないことをおさえる。 ・なつみちゃんと遊びたいという意見に偏った場合は、はるちゃんが遊んでくれなくなるかもしれないと揺さぶりをかける。
<p>3 次の日、なつみちゃんを誘って遊んだわたしの気持ちを考える。</p> <p style="text-align: center;">なつみちゃんとあそんだわたしは、どんな気持ちでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なつみちゃんと遊ぶと楽しいなあ。 ・なつみちゃんがニコニコしてうれしいなあ。 ・みんなでいっしょに遊びたいなあ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・誰とでも仲良く遊びたい気持ちから、なつみちゃんを誘ったことをおさえる。 ・周りの人の喜びを、自分のこととして感じているわたしに着目させる。
<p>4 今後、わたしはどうしたらいいか考える。</p> <p style="text-align: center;">これから、どうしたらいいでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なつみちゃんは一人で寂しそうなので、なつみちゃんと遊ぼう。 ・はるちゃんに話をして、なつみちゃんともいっしょに遊ぼう。 ・はるちゃんに、なつみちゃんといっしょに遊ぶと楽しいよと言って、みんな仲よくなれるようにしよう。 ・みんなで遊べるように、誰かに相談しよう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・偏った考え方にならないよう、二人との関係を大切にしたいわたしに着目させる。 ・強い立場のはるちゃんに対して、自分の本当の気持ちを言うことができるか、自分自身のこととして考えさせる。 ・強い立場のはるちゃんに対して攻撃的であったり、はるちゃんを疎外したりする発言にならないよう、誰とでも仲よく遊びたいわたしの気持ちを思い起こさせる。

	分類	2 - - ア	資料名	はるかのひまわり	学年	2年	領域	道徳	3 -
--	----	---------	-----	----------	----	----	----	----	-----

1 ねらい

かけがえのない命の尊さを知るとともに、自他の命を大切にしようとする。

2 趣旨

震災によりはるかさんを失った家族やまちの人たちの悲しみに共感させながら、かけがえのない命の尊さについて考えさせる。

悲しみを乗り越え、「はるかのひまわり」を全国各地に送り届けている人たちの「はるかのひまわり」に込められた思いに共感させながら、人と人がつながり、共に生きることの大切さを考えさせる。

3 配慮事項

特に生活科でひまわり等の植物を育てる学習と関連を図ることで、本資料がねらう命の尊さや生きることの大切さをより深く実感させる。

防災教育副読本「あすにいきる」などの教材や資料・写真を用いて、震災の様子をとらえられるようにする。写真を掲載している宮城県気仙沼市立馬籠幼稚園の実践から、「はるかのひまわり」の広がりについて紹介する。(資料編 P. 8 参照)

4 展開例

学 習 内 容	指 導 上 の 留 意 点
<p>1 ひまわりを育てた学習について話し合う。</p> <p style="text-align: center;">ひまわりを育ててみた感想を発表しましょう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 生活科での学習を振り返らせながら発表させる。
<p>2 資料「はるかのひまわり」について話し合う。</p> <p style="text-align: center;">空き地にひまわりが咲いた時、みんなはどんな気持ちだったでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> はるかさんが、ひまわりになって帰ってきた。 うれしい。 震災で被害にあったのに、なんて強いひまわりなのだろう。 	<ul style="list-style-type: none"> 震災で何もかも失った状況の中で、うれしいできごとであったことや、ひまわりの生命力を感じ取らせる。
<p style="text-align: center;">家族や町の人たちは、どんな気持ちで、町のあちこちに「はるかのひまわり」のたねをまいて育てたのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> はるかさんをいつまでも忘れないように。 町のあちこちを、このひまわりでいっぱいにしたい。 明るくしたい。自分も元気になりたい。 	<ul style="list-style-type: none"> はるかさんが生きていた証を残していこうとする活動から、命の大切さを考えさせる。 悲しみを、みんなで乗り越えていこうとする人々の姿勢に共感させる。
<p style="text-align: center;">どんな願いを込めて、「はるかのひまわり」を日本じゅうに、また外国へ送り続けているのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> はるかさんの分まで大切に育ててほしい。 「はるかのひまわり」で元気になれたから、他の人たちにも元気になってもらいたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 「はるかのひまわり」で人と人とのつながりを実感させるとともに、「はるかのひまわり」に込められた思いから、命の尊さや共に生きていくことの大切さを実感させる。

	分類	3 - - ア	資料名	見まもり隊のおじいさん・おばあさん	学年	2年	領域	道徳	2 -
--	----	---------	-----	-------------------	----	----	----	----	-----

1 ねらい

地域の見守り活動をされているおじいさんやおばあさんに対して、感謝の気持ちをもつ。

2 趣旨

見守り隊の人の活動について、改めて気づかせるとともに、日頃お世話になっていることに対して、感謝の気持ちをもたせる。

本資料では、ぼくの気持ちの変化について考えながら、見守り隊の人との温かい交流について感じ取らせる。

3 配慮事項

見守り隊の人も児童の元気な姿に触れることにより、この見守り活動がより活発に行われると考えられる。児童と高齢者の相互の心温まるよりよい関係が築いていけるよう指導していきたい。

生活科の地域調べの学習と関連させ、事後に見守り隊の人の話を聞くなどの交流の場面を発展的に行うことにより、見守り隊の人の思いがより感じ取れると考えられる。

4 展開例

学 習 内 容	指 導 上 の 留 意 点
1 資料を読んで、場面の状況をつかむ。 2 変化していくぼくの気持ちについて考える。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;">早足で帰っているとき、どんな思いだったのでしょうか。</div> <ul style="list-style-type: none"> ・けんかして腹が立つ。 ・だれとも話したくない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・時間の経過をおさえておく。 ・けんちゃんと口げんかをしてしまったことで、見守り隊の田中さんたちのことを無視してしまったことに気づかせる。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;">電話で仲直りができたとき、どんな気持ちになったでしょう。</div> <ul style="list-style-type: none"> ・うれしくて、すっきりした。 ・でも、田中さんたちの顔が急にうかんできた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・仲直りができすっきりしたが、すぐに気持ちの変化していくぼくの気持ちに共感させたい。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;">田中さんたちの顔がうかんでから、どんなことを考えていたのでしょうか。</div> <ul style="list-style-type: none"> ・無視してしまって、ごめんなさい。 ・暑い日も雨の日も、いつも横断歩道のところで待っていている。 ・いつもニコニコとした顔で話しかけてくれる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・無視してしまった行動を振り返りながら、いつも見守ってくれていること、ニコニコとした顔で話しかけてくれることなど、お世話になっていることを改めて想起しているぼくの気持ちを感じ取らせたい。
3 次の日、田中さんたちと出会ったときのぼくの気持ちを考える。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;">大きな声でこたえたぼくの気持ちを考えましょう。</div> <ul style="list-style-type: none"> ・いつも通りでほっとした。 ・いつもありがとう。 ・これからもよろしくお願いします。 	<ul style="list-style-type: none"> ・大きな声でこたえているぼくの気持ちに共感させ、すっきりしたぼくが見守り隊の人と今後もふれあいを楽しみにしていることに気づかせたい。

たのしい えんそく

本文（紙芝居として活用）

「ルールをまもって、たのしくすごしましょうね。」

「は～い。」

「みんなで、おにごっこしよう！」

山に遠足に来て、子どもたちはおにごっこをして遊んでいます。

「ここまでおいで。」「つかまるもんか。」

クマくんは、枝を折りながら木に登ったり、

花を踏みつけたりしながら、夢中で遊んでいます。

それを見て、友だちはびっくりしています。

「さあ、おべんとうにしましょう。」

「やったー！」「おなかペコペコだあ。」

切り株の上で、笑顔でお弁当を食べ始める子どもたち

「クマくん、すごいスピードだね。」

食いしん坊のクマくんは、食べ散らかして、ゴミもポイ捨てしています。

「ああ、おいしかったあ！」

大の字に寝転がりました。

そして、クマくんは 眠ってしまいました。

クマくんのまわりが急に暗くなってきました。 * 太字の場面は夢の中の出来事

「えーん、えーん。」「ぐすん、ぐすん。」

折れた木の枝や花が泣いています。

「きたなくていやだよ。」

切り株も泣いています。

「わぁー。」

クマくんは、頭を抱えてうずくまりました。

うなされているクマくんは、友だちに揺り起こされました。

「ああ、ゆめだったのか。」

まわりを見まわすと、枝や花、そしてゴミが散らかっています。

「ごめんなさい。」

クマくんは、枝や花に謝りました。

そして、散らかしたゴミを片づけました。

「さあ、しゅうごうですよ。」

先生の声に、みんなは集まっていきます。

あれっ クマ君のリュックに、何かついていますよ。

葉っぱの手紙です。

『またおいで 山のなかまより』

いっしょに あそぼ

本文 原典「2011 揖龍同教人権文集 ひかり」(3年生作品 改作)

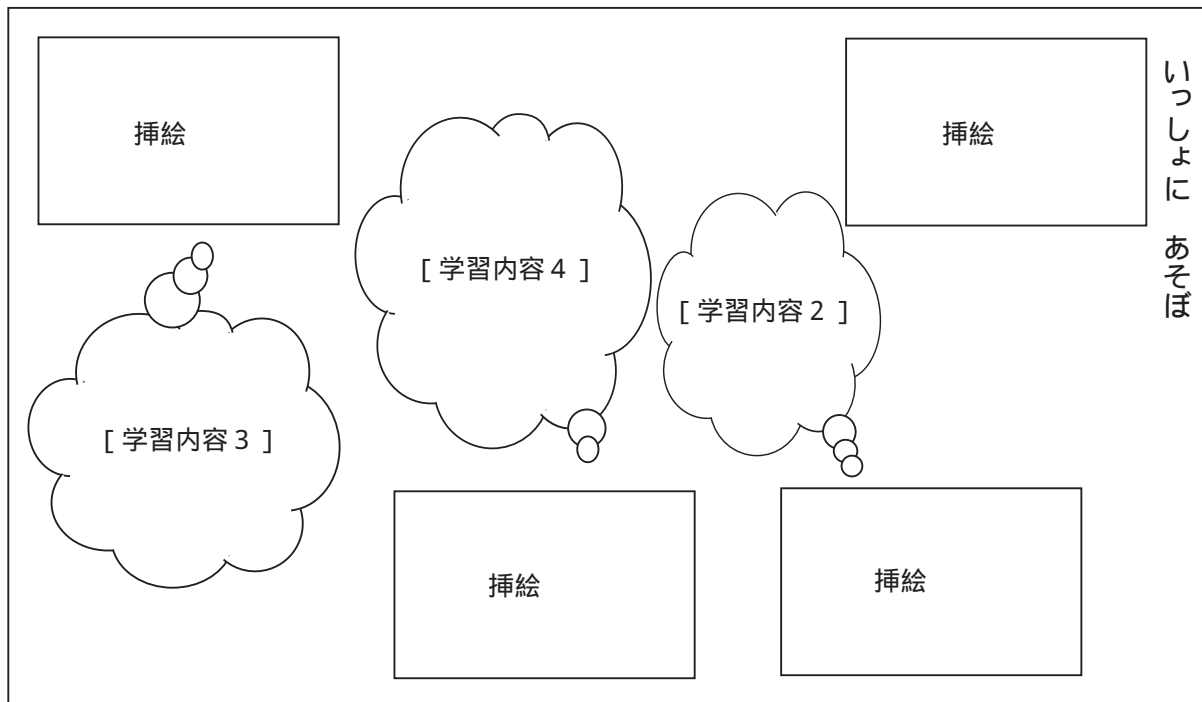
わたしは、休み時間にはるちゃんたちとジャングルジムで遊んでいました。
すると、なつみちゃんが一人ぼっちでいたので、
「いっしょにする？」
と声をかけました。
なつみちゃんは、すごうれしそうに、
「うん。」
と言いました。
すると、はるちゃんが、
「だめっ。」
と言いました。

わたしは そのまま遊んでいたけど、なんか変な気持ちでいました。わたしが はるちゃんたちと遊ばなかったら なつみちゃんと遊べて、なつみちゃんが一人にならずにすむんだけど、今度は、はるちゃんがわたしと遊んでくれないと思ったからです。でも、なつみちゃんは、さびしそうにしています。

次の日、わたしは 学校でなつみちゃんと遊ぶことにしました。
わたしは、
「いっしょに遊ぼ。」
と、なつみちゃんに声をかけました。いっしょにあそぶと、なつみちゃんがニコニコしていました。わたしも、とてもうれしかったです。

わたしは、はるちゃんともいっしょに遊びたいです。みんなで遊べるといいのにな。
どうしたらいいかなあ。

板書例



黒板の挿絵は、「前日(挿絵)」を右側、「次の日(挿絵)」を左側、「思い悩んでいるわたし(挿絵)」を中央に提示し、対比させながら考えられるように工夫する。

はるかのひまわり

参考資料

- ・ 絵本「あの日をわすれない はるかのひまわり」(指田和子作 2005年 P H P 研究所)
- ・ NPO 法人阪神淡路大震災「1.17 希望の灯り」HP <http://117kibounoakari.jp/>

「はるかのひまわり」について

「はるかのひまわり」とは、阪神・淡路大震災で、家の下敷きになって亡くなった加藤はるかさん(当時11歳)という女の子の名前にちなんだものです。

はるかさんは、いつも笑顔で元気いっぱいの子でした。震災の年の夏、はるかさんの家があった空き地から、たくさんのひまわりの花が太陽に向かって力強く咲きました。そのひまわりは、はるかさんが可愛がっていた隣の家のオウムの餌だったひまわりの種から咲いた花でした。

地域の人たちはその種を大切に集め、それを「はるかのひまわり」と名づけて、毎年絶えることなく植え続けています。震災で何もかも無くしてしまった神戸の街に、次々に大輪の花を咲かせた「はるかのひまわり」は、たくさんの人を励まし、勇気を与えました。

その後、「はるかのひまわり」の種は、ボランティアの人たちの手によって、新潟中越地震などによる国の内外の被災地に届けられ、送られたそれぞれの場所で「はるかのひまわり」がつながり、生き続けています。

平成23(2011)年3月11日に発生した東日本大震災では、全国、全世界からの救援活動が展開されています。「はるかのひまわり」の種も神戸や東北のボランティアの方々によって、何万粒も植えられました。きっと、被災した街でも「はるかのひまわり」は、たくさんの人を励まし、勇気を与えていることでしょう。

阪神・淡路大震災の経験から学んだことや受け継ぐことは、たくさんあります。人々の絆の象徴である「はるかのひまわり」もその一つであると思います。

「はるかのひまわり」を命の大切さ、命のひろがり、人と人とのつながりを学ぶ資料として活用ください。

宮城県気仙沼市立馬籠^{まごめ}幼稚園の実践「『はるかのひまわり』を咲かせよう」について ねらい

- ・ 「はるかのひまわり」の活動を通して、命の大切さに気づく。
- ・ 人と人とのつながりの大切さを知り、感謝の気持ちをもつ。

活動の様子

- ・ 震災後、支援のために「はるかのひまわり」の絵本と種が園に届き、絵本の内容に幼児も教師も心を打たれ、幼児たちに無事生きていることに感謝する気持ちが芽生え、種をまくことになった。
- ・ 花壇を作り、種をまき、水やりなどの世話をすることとおして、気づきや発見があった。
- ・ 育ったひまわりを触ったり、描いたりして、命の大切さを実感できた。
- ・ 多くの方々に知ってもらい多くの花を咲かせてもらうため、採った種を袋詰めした。
- ・ 毎年参加している市のイベントで「はるかのひまわり」の種を展示し、多くの市民に持って帰ってもらった。

活動を終えて

- ・ 絵本と種との出会いは、幼児や教師を勇気づけ、大きく育ったひまわりを見て励みになった家庭も多く、生かされた命を大切に精一杯生きようとする源となった。
- ・ どの幼児も、次の夏、たくさんの「はるかのひまわり」に出会えることを楽しみにしている。

どうしたの？

A large speech bubble containing ten vertical dashed lines for writing.

なまえ

A vertical rectangular box for writing a name.



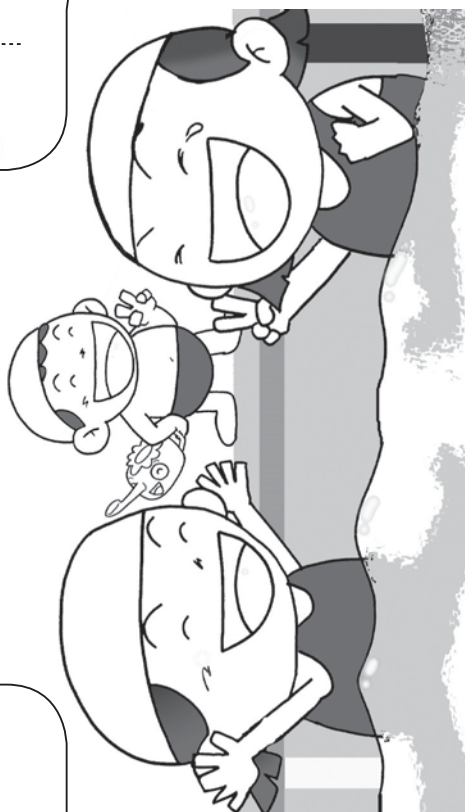
ゆめみだい

なまえ

.....

.....

.....



.....

.....

.....

2	分類	3 - - ア	資料名	すてきな 一日	学年	1 年	領域	特別活動（学級活動）
---	----	---------	-----	---------	----	-----	----	------------

1 ねらい

自分と周囲との様々な関わりに目を向け、身近な生活の中ですすんで関わりを広げるとともに、自分の責任や役割を果たそうとする。

自分の身の回りのことを自分ですることの大切さに気づき、基本的な生活習慣を身につけてより豊かに生活しようとする。

2 趣旨

基本的な生活習慣を身につけ、周囲との様々な関わりを大切にしながら自分の責任や役割を果たすことは、人権尊重を基盤とした生き方の基礎となることからである。

本資料の中には、望ましい生活習慣に関するもののほかに、人が周囲と豊かに関わっている様子や子どもがすすんで責任や役割を果たそうとしている場面が描かれている。

イラストに登場する人々の生き生きとした表情を手がかりに、「すてきな一日」の実現につながっているさまざまな行いについて考えさせる。

3 配慮事項

イラストに描きこまれている要素が多いので、ねらいや実態に応じ場面を絞って提示することも考えられる。

4 展開例

学 習 内 容	指 導 上 の 留 意 点
1 絵を見て気づいたことを話し合う。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px auto; width: fit-content;"> どの人が楽しそうにしているでしょう。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> 一枚の絵の中にある多様な場面に目を向けさせ、「すてきな一日」につながる場面を見つけさせる。
2 基本的な生活習慣や責任・役割について話し合う。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px auto; width: fit-content;"> 円の中の男の子は、どこで何をしていますのでしょうか。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> 右上の円内の男の子を探させることにより、基本的な生活習慣に目を向けさせる。 すすんで仕事をしている子、人のために行動している子を見つけさせることにより、責任や役割に目を向けさせる。
3 人と人の関わっている様子について話し合う。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px auto; width: fit-content;"> 人と人がふれあっている様子を見つけましょう。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> 関わりの中でどんな話をしているのか、また、どんな気持ちになっているのかを想像させる。
4 生活をふりかえり、自分にできることを考える。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px auto; width: fit-content;"> 「すてきな一日」のためにどんなことをしてみようと思いますか。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> 「自分のこと」「仕事」「ふれあい」といった観点で整理し、認め励ますことにより意欲をもたせる。

3	分類	3 - - ア	資料名	まほうの ことば	学年	1 年	領域	道徳	2 -
---	----	---------	-----	----------	----	-----	----	----	-----

1 ねらい

相手の気持ちを考えて、気持ちのよい言い方や行動をしようとする。

2 趣旨

あいさつは、社会生活を豊かにするために身につけておきたい基本的なスキルの一つである。あいさつが自然にできるということは、社会性を培うことやよりよい人間関係を結んでいくという観点からも大切である。

相手の気持ちを考え、自分の思いが伝わる気持ちのよい言い方や行動がとれることで、自分も相手もよい気持ちとなり、お互いの生活を豊かにしていくということを、「まほう」という不思議な力のイメージから感じ取れるようにさせる。

朝（家庭）、昼（地域）、放課後（学校）のそれぞれを象徴した場面で、できた時とできなかった時の明暗の対比から、相手を思いやる言葉がお互いの人間関係を豊かにすることに気づかせたい。そして、生活の中から「自分のまほう」を探す活動に発展させ、学習を深めさせる。

3 配慮事項

児童や家庭、地域の実態や課題に合わせて場面設定などを工夫する。

また、指導にあたっては、家族や友だちだけでなく、地域との結びつきや高齢者とのふれあいなど、対象の範囲を広げて学習していくことも可能である。

例示以外の場面を設定し、「すてきな 一日」と合わせて、よりよい人間関係を結ぶためのスキルの育成に活用したい。

事前準備として、あいさつについて児童の様子を把握しておき、指導に生かすとともに、事後には、終わりの会などで「わたしのまほう」を肯定的に評価し合う活動を継続していくことが大切である。

4 展開例

学 習 内 容	指 導 上 の 留 意 点
<p>1 三つの例示された場面をもとに、明るい表情になったのはどんな言葉かけがあったのかを話し合う。</p> <p style="text-align: center;">どうして、明るい絵になったり、暗い絵になったりするのでしょうか。</p>	<p>・自分の生活を想起させながら、興味づけをする。</p>
<p>2 主人公が、「まほう」と感じたわけを話し合う。</p> <p style="text-align: center;">どうして、ことばかけを「まほう」だと思ったのでしょうか。</p>	<p>・あいさつなどができたことで、自分もまわりの人も明るくなることを感じさせたい。</p>
<p>3 これまでの自分の生活を振り返り、自分の「まほう」を探す。</p> <p style="text-align: center;">わたしの「まほう」を発表しましょう。</p>	<p>・ロールプレイ（役割演技）で明暗の場面を比較させることも効果的である。</p> <p>・人間関係を活性化させるためには、肯定的な声かけが大切なことに気づかせる。</p>

4	分類	3 - -イ	資料名	ともだち 大すき	学年	1年	領域	特別活動(学級活動)
---	----	--------	-----	----------	----	----	----	------------

1 ねらい

自分のよさや友だちのよさが分かり、素直に受け入れようとする。

2 趣旨

自分が大切にされていると実感することで、自分を肯定的にみることができ、友だちのよさにも気づくことができる。そのためにも自尊感情をもたせ、高めていくことが必要である。

学校生活に慣れてきた時期に、友だちのよさをみつけようとする姿勢を培っていく。

3 配慮事項

指導に際しては、友だちから認められにくい児童がいることも考えられるので、児童の実態に配慮するとともに教師自身が一人一人の児童のよさを的確に把握しておくことが必要である。

友だちを固定的、一面的に見ないで、友だちのよいところを見ていくことの大切さや、そのことにより一見短所に見えることでも長所となることに気づかせる。

終わりの会などで個々のよさが認められる活動を取り入れるなど、日常の学級経営において、継続的に友だちのよさを見ていこうとする学級の風土を培っていくことが大切である。

4 展開例

学 習 内 容	指 導 上 の 留 意 点
<p>1 資料について考える。</p> <p style="text-align: center;">友だちのどんなところがすてきですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 仕事をがんばるところ ・ ニコニコ笑顔でいるところ ・ やさしいところ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ どの子もそれぞれにすばらしい面を持っていることを感じとらせる。 ・ 友だちのすてきな姿を認めている学級の仲間の姿にも気づかせたい。
<p>2 「おこりっぽいけど、やさしい」というのはどんなことか考える。</p> <p style="text-align: center;">「おこりっぽいけど、やさしい」子って、どんな子ですか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 短所のみに着目することが、その子を正しく理解していないことだと気づかせ、長所やよさを見ていこうとすることの大切さに気づかせる。
<p>3 学級の友だちのよいところを話し合う。</p> <p style="text-align: center;">学級の友だちのすてきなところをみつけましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 性格面 ・ 行動面 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 児童からの発言を大切にしたいが、出にくい場合は、教師がポイントを例示する。

5 参考

「友だちのよいところみつけカード」を使って、日常の生活場面に発展させていくこともできる。

5	分類	2 - - ア	資料名	とんとん しっ	学年	1年	領域	道徳	4 -
---	----	---------	-----	---------	----	----	----	----	-----

1 ねらい

集団生活のルールやマナーを進んで守ろうとする。
相手の気持ちを考えた言動の大切さに気づき、豊かな人間関係を築こうとする。

2 趣旨

集団生活のルールやマナーを守り、相手や周囲の人の気持ちを考えた言動を行うことは、よりよい人間関係を築くうえで基盤となることである。

日常生活の中に起こりがちなトラブルの場面のロールプレイにより、注意した側・された側それぞれの思いに目を向けるようにする。

身近な生活の中から、ルールやマナーが守られなくて困ったり、思慮の足りない言動がもとでいやな思いをしたりした経験を見つめ直す活動を通して、相手の気持ちを考えてよりよい関係を築いていこうとする態度を養う。

3 配慮事項

おしゃべりした子と注意をした子のどちらが悪いかを考えるだけではなく、双方の立場からマナーの大切さや適切な表現方法について考えられるようにする。

4 展開例

学 習 内 容	指 導 上 の 留 意 点
1 資料前半の場面を把握する。	・挿し絵を手がかりに、身近に起こりがちな場面として把握させる。
2 前半の場面で、注意した「となりのこ」と注意されたぼくの思いについて考える。	・注意した子と注意された子になって、ロールプレイをさせる。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> 言い合いをされていて、どんな気持ちになりましたか。 </div>	
3 資料後半を読み、それぞれの思いについて考え、表現する。	・ロールプレイの中で感じたことを双方の立場から表現させるようにする。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> 「とんとん しっ」としたとき、「となりのこ」とぼくはどんな気持ちだったでしょう。 </div>	
<ul style="list-style-type: none"> ・「とんとん しっ」とした「となりのこ」の気持ち ・注意されたぼくの気持ち 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートに心の中の言葉を表現させることで、口論になった前半とのちがいを感じ取らせるようにする。
4 身近な生活の中の言動についてふりかえる。	・マナーの大切さや適切な表現方法について、身近な事例をとりあげる。

5 参考

ワークシート 平成13年発行小学校低学年用『ほほえみ』活用の手引き 参照

6	分類	2 - -イ	資料名	なまえ	学年	1年	領域	道徳	3 -
---	----	--------	-----	-----	----	----	----	----	-----

1 ねらい

名前がその人にとって、とても大切なものであることが分かり、互いに名前を大切にしようとする。

2 趣旨

黒板に書いた名前を見た時の気持ちや名前を消された時の気持ちに共感させ、ふだん何気なく呼び合っている名前は、自分の存在や自分自身を表す大事なものであることに気づかせる。

名前に込められた保護者の思いや願いを知るとともに、周りの人々の愛情に包まれて育ってきたことを知り、自尊感情を高めていくことにもつなげていく。

3 配慮事項

名前はその人自身を表す固有のものであり、その人にとっても他の人たちにとっても極めて重要なものである。その学習により自尊感情と共生の心をはぐくむようにしたい。

近年、外国人児童が増加している状況を踏まえ、外国人児童の名前を取り上げるなど、学校や地域の実態に即した指導をする。

ここでは外国人児童に対して本名を名乗らせることのみならず主眼を置くのではない。外国人児童が在籍している場合には、本人や保護者の気持ちを把握し連携するなど、十分に配慮することが大切である。

資料の挿絵と同姓同名の児童がいる場合など、扱いには十分配慮が必要である。

4 展開例

学 習 内 容	指 導 上 の 留 意 点
1 資料の黒板の絵を見て、どんな名前があるか探す。	<ul style="list-style-type: none"> いろいろな名前があることに気づかせ、名前に興味をもたせる。
2 詩「なまえ」を読んで考える。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;">白く光っていたのは、なぜでしょう。</div> <ul style="list-style-type: none"> 大切なものだから。 宝物だから。 	
<ul style="list-style-type: none"> 大切に思ったものが消されたから。 自分も消えてしまったよう思ったから。 	<ul style="list-style-type: none"> 名前が、自分自身を表す価値あるものであることを気づかせる。
3 自分の名前を黒板に書いて、話し合う。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;">自分の名前を黒板に書いてみましょう。</div> <ul style="list-style-type: none"> 光って見えるかけがえのない名前だからこそ悲しい気持ちになることを共感させたい。 名前は誰にとっても大切なものであり、友だちの名前も大切にしようとする気持ちをもたせたい。 	
	<ul style="list-style-type: none"> 自分の名前も白く光っているかをもとに発展させて考えさせる。 名前の由来や家族の思いなどを知っている児童には発表させたい。

5 参考

特別活動（学級活動）で、家の人に名前を聞いてきて発表するなどの発展が考えられる。

7	分類	2 - - ア	資料名	あやかちゃん あそぼ	学年	1年	領域	道徳	2 -
---	----	---------	-----	------------	----	----	----	----	-----

1 ねらい

障害のある友だちの願いに気づき、ともに伸びていこうとする。

2 趣旨

自己満足の「やさしさ」の押しつけは、本人にとってかえって迷惑な場合もあることに気づかせ、相手の思いを聞いたうえで、自分の立場からできることを一緒に考えたり、行ったりすることが大切であることを理解させる。

現行の遊びのルールが、障害のある友だちを除外して設定されていることに気づかせ、積極的に変更して、だれでも参加できるルールにしていくことが大切であることを理解させる。

3 配慮事項

「あやかちゃんがみんなと一緒に遊ぶためには、あやかちゃんの練習が必要である」と、子どもたちが捉えないように、指導する際には留意することが大切である。

学級に障害のある児童がいる場合、障害の状況や保護者の願いなどを十分把握し、連携を保ちながら、指導することが重要である。

4 展開例

学 習 内 容	指 導 上 の 留 意 点
<p>1 、 の場面から、あやかちゃんに対するみんなの気持ちを考える。</p> <p style="text-align: center;">どうして、みんなはお絵かきをしようと誘ったのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・車イスに乗っているから。 ・足が不自由なので、ボール遊びはできないから。 	<ul style="list-style-type: none"> ・あやかちゃんの障害の状態について触れる。 ・お絵かき遊びをしに行ったやさしさについて考えさせる。
<p>2 お母さんとキャッチボールをしているあやかちゃんを見たみんなの気持ちについて話し合う。</p> <p style="text-align: center;">あやかちゃんはどんな気持ちでキャッチボールをしているのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・みんなとボール遊びがしたい。 ・みんなと同じことがした。 	<ul style="list-style-type: none"> ・みんなと同じようにしたい気持ちを感じ取らせる。 ・みんなの気持ちの変化についても考えさせる。
<p>3 あやかちゃんがニコニコ顔になったわけについて話し合う。</p> <p style="text-align: center;">ニコニコしているあやかちゃんやみんなの気持ちを考えましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・吹き出しに書く。 ・書いたことを発表し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・遊びのルールを工夫したことで、あやかちゃんもみんなも楽しく遊べたことに気づかせる。 ・特別支援学級の児童への関わり方にも発展させたい。

5 参考

の場面の絵を編集して吹き出しをつけたワークシートを作成して使用する。

8	分類	2 - - ア	資料名	となりの たぬき	学年	1 年	領域	道徳	2 -
---	----	---------	-----	----------	----	-----	----	----	-----

1 ねらい

「決めつけ」や「思い込み」で人を判断することの誤りに気づき、友だちと仲よくしようとする。

2 趣旨

「決めつけ」や「思い込み」は、事実に基づいた正しい判断ではなく、相手の気持ちや願いを踏みにじることにつながり、自己実現や豊かな人間関係づくりを阻む原因となっていることを考えさせる。

偏った見方で判断した結果、自分も相手にいやな思いをさせていないだろうかなど、相手の行動ばかり見るのではなく、自分の行動も振り返ることがよりよい人間関係づくりに大切であると気づかせる。

3 展開例

学 習 内 容	指 導 上 の 留 意 点
1 うさぎはたぬきのことをどう思っているか考える。 うさぎはたぬきのことをどう思っているでしょう。	・お互いに嫌っている2人の関係を捉えさせる。
2 たぬきの行動が変わったとき、うさぎはどんなことを思っているか考える。 たぬきのやさしさを感じて、うさぎはどう思ったでしょう。	
・ やっつけるためにやさしくしてるのに、困ったなあ。 ・ たぬきは本当はやさしかったんだ。	・ 「えっ」「どうしよう。どうしよう。」といううさぎの言葉を取り上げ、お月様との約束を後悔していることに気づかせたい。
3 うさぎがお月様にやめてくださいと言った後、どんな言葉を言ったかを考える。 「やめてくださーい。」と言った後、うさぎはどんな言葉を言ったでしょう。	・ うさぎの心情に迫らせるために、お月様（教師）とうさぎ（児童）でロールプレイを取り入れる。
・ ごめんなさい。 ・ たぬきは本当はいいやつだったんだ。 ・ たぬきをやっつけないでください。 ・ わたしがやさしくしていなかったのが悪かったです。	・ ロールプレイの中で、うさぎの改心した気持ちを受け止めるだけでなく、初めはたぬきをやっつけたいと思っていた気持ちを指摘するような切り返しの言葉を入れるなど、うさぎの立場に立って深く考えさせる。
4 月の中でのうさぎとたぬきの会話を考える。 うさぎとたぬきはどんな話をしているでしょう。	
・ これまで、ごめんなさい。 ・ こちらこそ、ごめんなさい。 ・ ぼくが悪かった。	・ の絵で2人が仲よく会話していることを考えることで、お互いの今までの行動を振り返り、よりよい人間関係づくりの素晴らしさを実感させる。

9	分類	2 - -イ	資料名	ないと こまるもの	学年	1年	領域	特別活動(学級活動)
---	----	--------	-----	-----------	----	----	----	------------

1 ねらい

すべての人が、生まれながらにもっている「人としての権利」について考える。

2 趣旨

人が生きていくために必要なものや欲しいものを考え、「人としての権利」についての認識をもたせる基礎を培う。

同じ種類のカードを比較することにより、生きていくうえでより必要なものを考えさせる。

3 配慮事項

「つながりさがしゲーム」などを導入として使い、学習の意欲づけとする。

最終的に必要であると残したものについて、それぞれの意見を尊重する。

4 展開例

「つながりさがしゲーム」をする。

【ゲームの内容】

例 1 11枚のカードをそれぞれの関連でつなげる。

例 2 1枚のカードに関連するものを連想して次々に発表していく。

11枚のカードを配布する。

白紙カードに「自分にとってないとこまるもの」を書く。

「宝物かばんゲーム」をする。

【ゲームの内容】

ア 大・中・小のかばんと12枚のカードを用意する。

イ 大のかばん(11枚のカードが入る)から、中のかばん(9枚しか入らない)にカードを選んで移す。

ウ 中のカードから小のかばん(4枚しか入らない)にカードを選んで移す。

小のかばんに残した理由、残さなかった理由を発表する。

10	分類	3 - - ア	資料名	しゅわで おはなし	学年	1・2年	領域	特別活動(学級活動)
----	----	---------	-----	-----------	----	------	----	------------

1 ねらい

手話によるコミュニケーションの方法が分かり、必要に応じて使おうとする。

2 趣旨

コミュニケーションの手段の一つである手話を学び、それを使うことはハンディキャップを補うだけでなく、人間関係を豊かにするものであることを理解させる。

あいさつなど簡単な手話を学び、実際に友だち同士で使うことで手話への関心を高めさせる。

3 配慮事項

家族の中に手話を必要とする人がいる場合など、手話が生きるための手段となっていることなどに十分配慮し、遊び半分に使うことのないように十分指導する。

様々な人々との交流の機会を設け、豊かなふれあいの中で学習を深めることが望ましい。

手話だけでなく、ボディランゲージなど様々な方法で意思が通じることを紹介したり、体感させたりすることもよい。

事後指導として、音楽の時間や体験学習の機会を使い、手話を使った活動をすると効果的である。

4 展開例

手話を覚える。

手話を使ってやりとりする。

友だちと手話で会話をする。

6 参考

ワークシート(簡単な会話のできる手話)

平成13年発行小学校低学年用『ほほえみ』活用の手引き P.38・39 参照

(財)全日本ろうあ連盟やNHKなどによる手話のビデオも参考にしたい。

11	分類	3 - -イ	資料名	うれしいね たのしいね	学年	1・2年	領域	生活
----	----	--------	-----	-------------	----	------	----	----

1 ねらい

地域や学校などの身の回りにあるボランティア活動を知り、みんなの役に立つことに進んで取り組もうとする。

2 趣旨

本資料は、環境、福祉、国際理解、異年齢交流、情報などの視点でボランティア活動を紹介している。そこで、挿絵の中から様々なボランティア活動を見つけることで、私たちもそれに支えられ、活動に参加することで生活に潤いを与えられていることに気づかせる。

学校や地域などの生活の中で、みんなの役に立つことを進めることは、「福祉の心」を育成する基礎を培うものである。

人と人、人と社会、人と自然との豊かなふれあいを大切にしたい社会参加が促進されるよう、「うれしいね たのしいね」と感じる活動へと高めていく。

3 配慮事項

指導にあたっては、人と人がお互いにふれあいながら豊かに生き、自然とも共存していくことを視念に、みんなに役立つこと、そして自分の喜びと感ずることを探そうにする。

日々の生活を振り返り、日ごろのささやかな心づかいがボランティア活動に結びつくことに気づかせる。

4 展開例

学 習 内 容	指 導 上 の 留 意 点
<p>1 友だちや家の人などに役立つことをした経験について発表する。</p>	
<p>友だちや家の人などの役に立つことをしたことがありますか。どんなことをしましたか。</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・教室の本棚の整頓。 ・友だちが泣いていたのでわけを聞いた。 ・夕食の準備を手伝った。 ・毎日お風呂を洗うのがわたしの仕事。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分のくらしを振り返らせ、だれかのために役に立ったと感じたことを発表させる。
<p>2 絵を見て、みんなのために働いたり、役立つことをしたりしている様子について話し合う。</p>	
<p>みんなのために働いたり、役に立つことをしたりしている人を見つけましょう。</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・学習園の水やり。 ・横断歩道で見守っている。 ・車椅子を押している。 ・公民館で手話の勉強をしている。 ・川のごみを拾ってきれいにしている。 ・お年寄りの人と一緒に将棋をしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・役割や仕事だけでなく、人と人がふれあうことの大切さにも目を向けるようにする。 ・まわりの人に助けられたときの気持ちを想像し、わたしたちもいろいろな人に支えられていることに気づくようにする。
<p>3 自分にできそうなことやこれからやってみたいことを考える。</p>	
<p>自分にできそうなことやこれからやってみたいことはどんなことですか。</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・学校でそうじを一生懸命する。 ・小さい子のお世話ができそう。 ・わたしも手話をしてみたい。 ・外国のことを知って、仲良くなりたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア活動につながるような、ささやかな行いを肯定的に認めていきたい。

12	分類	3 - -イ	資料名	大きく なったら	学年	1・2年	領域	特別活動(学級活動)
----	----	--------	-----	----------	----	------	----	------------

1 ねらい

自分の夢をもち、いきいきと生活しようとする意欲をもつ。

2 趣旨

自己実現を図るために夢を持ちながら前向きに努力していくことは、大切なことである。

自分の夢や希望について考え、それをもち続けながら、実現に向かって努力しようとする意欲を養う。

3 配慮事項

自分の夢について自由に発表できるような認め合える雰囲気をつくる。

資料の仕事にとらわれることなく、自分の親や家族の仕事なども肯定的にいきいきと語らせる。

自分の親や家族の仕事などを積極的に語らせる場合には、教師が児童それぞれの家庭環境をしっかりと把握しておいたうえで行う必要がある。

4 展開例

学 習 内 容	指 導 上 の 留 意 点
<p>1 資料を読み、ぼくの夢について話し合う。</p> <p style="text-align: center;">ぼくはどんなゆめをもっていますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・虫のことを調べる人 ・りょうしさん ・だいくさん 	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの夢についてのイメージを深めさせる。 ・ぼくの夢である仕事の内容を話し合うことで、それぞれの仕事のすばらしさを感じ取らせる。
<p>2 身の回りの仕事について発表しあう。</p> <p style="text-align: center;">身の回りには、どんな仕事がありますか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の親や家族、地域など児童の身近な仕事やテレビなどで知り得る仕事などを紹介し、そのすばらしさを感じ取らせる。
<p>3 みんなの夢を出し合う。</p> <p style="text-align: center;">みんなは、大きくなったら何になりたいですか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の夢を吹き出しに書かせ、自由な雰囲気の中でのびのびと発表させる。 ・なりたい理由を言える児童には発表させる。 ・夢が複数ある児童についても認め合う。 ・それぞれの夢を認め合いながら、夢を持つことやその夢に向かって努力することの大切さを気づかせる。

13	分類	3 - -イ	資料名	はずかしがりやのかばくん	学年	1・2年	領域	道徳	1 -
----	----	--------	-----	--------------	----	------	----	----	-----

1 ねらい

先生や友達の励ましの中で、自分の力を出し切ろうとするとともに、夢や希望をもって素直に伸び伸び生活しようとする。

2 趣 旨

自ら進んで友達の輪に入ろうと積極的な言動をとることは、豊かな人間関係をつくるためにとっても大切なことであるとともに、友達の励ましや温かさに共感できる豊かな心情を培っていく必要がある。

3 配慮事項

児童の理解を促すために、教師による範読やペープサート、ロールプレイなどの工夫をする。

4 展開例

学 習 内 容	指 導 上 の 留 意 点
<p>1 話の流れを把握する。</p> <p>2 場面に沿いながら、かばくんの行動や気持ちを話し合う。</p> <p style="text-align: center;">かばくんは、どうして「ごようじがあるの」と言ったのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・はずかしがりやさんだから。 ・みんなといるとはずかしくなるから。 <p style="text-align: center;">その後、かばくんはどうしたでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・くしゃみ なくしもの ・ころぶ ビスケット ・川にはまる 橋渡し <p>3 かばくんの「ごようじ」について話し合う。</p> <p style="text-align: center;">かばくんの「ごようじ」は何だったのでしょうか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が理解しやすいように、挿絵を手がかりにしながらかばくんと教師が範読する。 ・みんなと遊びたいのに、そのように言ってしまったかばくんの気持ちを捉えさせる。 ・それぞれの場面について、かばくんの行動とみんなの反応をおさえ、板書にまとめる。 ・かばくんの行動が、結果的に他の動物の役に立ち、みんなにほめてもらっていることをおさえる。 ・かばくん役と他の動物役を児童に演じさせながら、展開してもよい。 ・かばくんが、みんなの励ましや温かさに共感し、自分のためだけでなく、他の子のためにもがんばろうとしていることを捉えさせる。

5 参考

原作「はずかしがりやのかばくん」(フレーベル館刊 文 矢崎節夫 絵 福原ゆきお)

14	分類	2 - - ア	資料名	ぼくって たからもの	学年	1・2年	領域	道徳	3 -
----	----	---------	-----	------------	----	------	----	----	-----

1 ねらい

家族から愛され大切にされてきた自分に気づき、自分を大切にすることができる。

今ある自分には、温かく見守り励ましてくれる家族や周囲の人々の存在があることに気づき、感謝の気持ちをもとうとする。

2 趣旨

低学年の児童にとってもっとも身近な家族の愛情にふれることで、自分が大切にされているということを実感させる。

児童に、自分の存在の大切さを気づかせるとともに、安心感をもたせ、自尊感情を高める。

3 配慮事項

一人親家庭や両親のいない家庭など、さまざまな家庭状況に配慮して指導する。

生活科の目標「身近な人々、社会及び自然とのかかわりを深めることを通して、自分のよさや可能性に気づき、意欲と自信をもって生活することができるようにする。」等と関連させて指導してもよい。

4 展開例

学 習 内 容	指 導 上 の 留 意 点
1 自分の「たからもの」について発表する。	・教師自身の宝物（手紙、写真など）を用意し、具体物を見せて導入の工夫をおこなうと効果的である。
みんなの「たからもの」は、何ですか。なぜ「たからもの」になったのですか。	
2 資料を読み、まさおの気持ち考える。	・児童が発表した宝物と、その理由を板書しながら、物そのものの価値に加えて、人とのつながりの中で価値が生まれていることに気づかせたい。
「ぼくって、ほんとうにたからもの」と聞いたのはなぜでしょう。	
3 おかあさんがまさおを抱きしめた意味について話し合う。	・お母さんのいつもの言葉から、まさおがお母さんにどう思われていると思っていたかについてを話し合う。 ・否定的な意見も予想されるが、そのまま発表させ、「まとめ」でそのしかる言葉の背後にある愛情に気づかせる。
どうして、おかあさんはまさおをだきしめたのでしょうか。	
	・まさおの疑問に対して、抱きしめることで心を伝えようとしたおかあさんの思いに気づかせる。 ・どの児童にも自分が「たからもの」であることに気づかせる。

16	分類	2 - - ア	資料名	自分らしく	学年	1・2年	領域	特別活動（学級活動）
----	----	---------	-----	-------	----	------	----	------------

1 ねらい

男女を固定したイメージで見るのではなく、一人一人の個性を認め、お互いに協力していこうとする。

2 趣旨

低学年では、男の子だから、女の子だからという意識は薄く、男女の抵抗感なく活動している場面も見受けられる。しかし、この時期からしだいに遊びや生活の中で男女を固定した考え方が現れてくる。これは、まわりの大人たちの意識の影響や、男女の性差の現れによることが多い。ここでは、男女共同参画社会を担う一員としての考え方や資質を養う。

この絵には、どの子ども生き生きと個性豊かに活動している姿が描かれている。自分の興味や関心によって自由に遊んでいることに気づかせたい。そして、性別による固定的な見方にとらわれることなく、個性を認め尊重することの大切さを考えさせる。

3 配慮事項

この資料では、あるべき望ましい姿を示しているので、指導にあたっては、それぞれの学校や児童の実態に応じた課題を設定することが大切である。

4 展開例

学 習 内 容	指 導 上 の 留 意 点
<p>1 絵を見て、自分がしたい遊びについて発表する。</p> <p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px;">どの遊びがしたいですか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・絵を見て、自分の興味がある遊びについて発表し合い、それぞれに興味が違うということを感じ取らせる。 ・「男の子なのに」とか「女の子なのに」という意見が出てきたら、なぜそのように思うのか意見を交流する。
<p>2 絵の子どもたちがどんな様子か話し合う。</p> <p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px;">遊んでいる子どもたちの顔や様子を見て、どんなことを思いますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・みんなニコニコとした顔をしている。 ・みんなとても楽しそう。 ・友だちと仲よく遊んでいる。 ・自分のしたい遊びができています。 	
<p>3 学級の課題に気づき、その解決に向けて話し合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・男女の性にとらわれず、自分のやりたい遊びができていて満足感を感じていることに気づかせたい。 ・みんなと協力しながら、生き生きと活動している姿を感じ取らせ、よりよい人間関係を築いていこうとする意識を持たせたい。

5 参考

ワークシート（じぶんで えらぼっ）

平成 13 年発行小学校低学年用『ほほえみ』活用の手引き P.40 参照

17	分類	2 - - ア	資料名	あなたなら	学年	2年	領域	道徳	1 -
----	----	---------	-----	-------	----	----	----	----	-----

1 ねらい

からかいや仲間はずれ、いじめなどの不当性に気づき、それを正していこうとする。

2 趣旨

人権尊重の学校文化を醸成する基盤として、身のまわりの人権にかかわる問題を鋭く見抜ける力をつける必要がある。そのうえで他の人権を尊重した豊かな生き方をすることが大切である。

本資料では、自分より小さい子が順番ぬかしという不当な行為を受けている場面が提示されている。その子の願いを知り、その願いを踏みにじる行為の不当性に気づかせる。

二者択一の資料を提示し討論させ、力関係や周囲の状況の中で葛藤させながら、正しく判断し解決のための行動に移せる実践力を培う。

3 配慮事項

この学習から自分たちの生活を振り返り、よりよく解決していこうとする実践力につなげる。

4 展開例

学 習 内 容	指 導 上 の 留 意 点
<p>1 学習資料を読んで考える。</p> <p style="text-align: center;">ぼくは、泣いている小さい子を見て、どう思っているのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・りょうくんはずるい。 ・順番を守らない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・順番ぬかしが、小さい子の楽しみをうばっていることに気づかせる。 ・順番ぬかしをした場面について、「りょうくんの行動」「その結果」「まわり反応」を発表させ、板書にまとめる。
<p>2 ぼくが困っている理由について話し合う。</p> <p style="text-align: center;">なぜ困ってしまったのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・注意した方がいいかな。 ・なかよしのりょうくんには注意しにくいなあ。 ・ぼくもブランコしたいなあ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・正しいと分かっているけど、行動に移せない要因について発表させ、板書にまとめ、注意すべきかどうかで葛藤しているぼくに共感させる。 ・日々の生活を振り返り、同じ事がないかを考えさせたい。
<p>3 ぼくは、どうするかを話し合う。</p> <p style="text-align: center;">「ぼく」は、どうするでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・注意した。 ・ブランコを楽しんだ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・2つの立場に分かれて発表させるが、理由も明らかにさせたい。 ・自分のわがままが、他の人の気持ちや願いを踏みにじていることもあるということに気づかせる。
<p>4 自分の生活を振り返る。</p> <p style="text-align: center;">勇気を出してがんばれたことはありませんか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・勇気を出して行動することの大切さを気づかせる。

18	分類	3 -	-イ	資料名	かぞくは ひとつ	学年	2年	領域	道徳	2 -
----	----	-----	----	-----	----------	----	----	----	----	-----

1 ねらい

家族や身近な人たちの思いが分かり、感謝の気持ちをもつ。

2 趣旨

家族をはじめ、身近な人々の愛情に包まれ成長している自分に気づき、そのことに感謝する心をもたせる。

挿絵によって、家族像を固定的、画一的にとらえるのではなく、さまざまな家族の姿があることに気づかせ、多様な家族のあり方を認め、尊重させる。

3 配慮事項

家庭の状況等で配慮を要する児童については、事前に指導しておくとともに、家庭と十分に連携をとっておく。

掲載した資料は、作文を通して働く父との心の交流を扱い、挿絵で母や祖父母、兄弟姉妹との心の交流についても扱うことができるようにしている。

家族のあり方が多様化しても、心の拠り所、居場所としての家族の姿を考えさせることが望ましい。

4 展開例

学 習 内 容	指 導 上 の 留 意 点
<p>1 資料を読んで、お父さんの様子について話し合う。</p> <p style="text-align: center;">わたしは、お父さんのことをどう思っているのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・明るく元気なお父さん ・忙しそうなお父さん ・よく働くお父さん ・大・大・大好きなお父さん 	<ul style="list-style-type: none"> ・働く家族の苦勞に目を向け、それにより自分の生活が成り立っていることを捉えさせる。 ・仕事だけでなく、家族の一員として頑張っているお父さんの姿とともに、お父さんが家事を手伝っている姿から、お母さんが家で働いていることにも気づかせたい。
<p>2 自分の身の回りで、自分を支えてくれている人について考える。</p> <p style="text-align: center;">みんなの大・大・大すきな人は、だれでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・やさしいお母さん ・いろいろと教えてくれるおばあさん ・勉強を教えてくれるお兄さん 	<ul style="list-style-type: none"> ・挿絵を手がかりにさまざまな家族のあり方や仕事の形態、自分を支えてくれている家族の姿に気づかせる。 ・さまざまな家族の姿を出し合う中で、大すきな理由を考えさせ、感謝の気持ちにつなげたい。
<p>3 自分の生活をふり返り、家族や身近な人に伝えたいことを考える。</p> <p style="text-align: center;">みんなの大・大・大すきな人に、ひとこと書きましょう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・だれに、どんな思いを伝えたいかをカードに記入させ、発表させる。 ・家族の状況など配慮を要する児童や書きにくい児童には、具体的な例を挙げ、生活をふり返らせたい。

5 参考

展開の中で、家族やお世話になっている人に手紙を書くなどの活動を取り入れてもよい。

19	分類	2 - -イ	資料名	わたしは わたし	学年	2年	領域	特別活動(学級活動)
----	----	--------	-----	----------	----	----	----	------------

1 ねらい

外見の違いと同様に、それぞれが異なる個性があり、思いや願いも違うことに気づく。

2 趣旨

等身大の自分を作り、互いの個性やよさに気づく活動を通して、自分を肯定的に捉えさせるとともに、人間関係の活性化を図る。

3 配慮事項

活動は生活科や道徳にも関連づけるなど、柔軟な展開が望ましい。

それぞれの活動の後で、自分自身を振り返る時間を設定すると効果的である。

4 展開例

以下の(1)から(2)までの一部または全部を計画的・継続的に扱うことが考えられる。

ダンボールで自分の体をつくろう。

「なかよしペア」づくり

- ・ゲームをしながら楽しい雰囲気、二人組を作る。

等身大の自分をつくろう。

- ・「なかよしペア」で、お互いに体の輪郭をとり合う。

- ・色を塗ったり、紙や布を貼ったりして、等身大の自分を仕上げる。

等身大の自分をそばに置いて、ワークシートに自分の紹介を書き、発表し合う。

いいところ見つけをしよう。

友だちのいいところを見つけよう。

- ・「きらきらポスト」をつくり、教室に設置する。

- ・ペアの友だちのいいところを「きらきらカード」に書いて、「きらきらポスト」に入れる。

- ・「いいところ見つけ」を、ペアの友だち 班の友だち クラスの友だちへと広げていく。

- ・「きらきらポスト」の中の「きらきらカード」を整理する。

友だちのいいところをみんなに紹介しよう。

自分への手紙を書こう。

5 参考

自分を紹介するカードなど。

20	分類	3 - -イ	資料名	ちっとも おもしろくない	学年	2年	領域	特別活動(学級活動)
----	----	--------	-----	--------------	----	----	----	------------

1 ねらい

困ることや不当なことについて、みんなで話し合い、解決していこうとする。

2 趣旨

ボール遊びに入れてもらえなかったピョンタたちの悲しい気持ちに気づかせ、迷いながらも仲間とともに解決していこうとする姿に共感させる。

様々な個性に合わせたり、能力を生かしたりしながら、みんなで一緒に遊ぶことの楽しさに気づかせる。

3 配慮事項

学級の実態によっては、仲間はずれの事案があることも考えられるが、仲間はずれをしている児童への個人攻撃にならないように配慮する。

事後に、みんなで遊ぶことの楽しさを体感できる活動をさせることが望ましい。

4 展開例

学 習 内 容	指 導 上 の 留 意 点
<p>1 ボール遊びに寄せてもらえなかったピョンタたちの気持ちを考える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>「おまえたちが入ると、ちっともおもしろくない。」と言われたピョンタたちはどんな気持ちになったでしょうか。</p> </div> <p>(言われた日)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ボール投げができなくて悲しい。 ・仲間はずれにされて悔しい。 ・ミーミーたちだけが遊ぶのは不公平。 <p>(次の日)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ちっともおもしろくない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ピョンタたちの気持ちを共感的に捉えさせたい。 ・町に一つしかない遊び場が独占され遊べないつらさを感じとらせたい。 ・次の日、暗い中でも遊びたいというピョンタたちの願いと、遊べずちっともおもしろくないと感じているミーミーの思いをおさえる。
<p>2 ピョンタたちがどんなことを考えたのか話し合う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>ピョンタたちは、どんなことを話し合っているのでしょうか。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・きついボールが受けられるように練習してはどうか。 ・勇気を出して、ミーミーと一緒に遊べるように頼んではどうか。 ・野原を使う時のルールを決めたらどうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ピョンタたちの話し合いの場面をロールプレイで再現させ、気持ちに迫らせたい。 ・勇気を出してミーミーたちに話し合いの要請をすることが、問題の解決につながるということに気づかせる。
<p>3 クラスで、同じようなことがないか出し合い、解決策について話し合う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>ピョンタたちのように、話し合ったらいいことはあるでしょうか。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分たちのクラスで起きている具体的な問題も、話し合いで解決できることを意識づけたい。 ・問題解決に向けて話し合いをすることが大切であり、決して個人攻撃にならないように配慮する。

21	分類	3 - - ア	資料名	パクさんと いっしょに	学年	2 年	領域	道徳	2 -
----	----	---------	-----	-------------	----	-----	----	----	-----

1 ねらい

身近な国の人や文化に関心をもち、進んでふれあおうとする。

2 趣旨

自分の国と異なる文化への関心を高め、ふれあう楽しさに気づかせることは、異文化を理解し尊重する態度とともに、外国人と豊かに共生していくための資質や能力の基礎となる。

パクさんの人柄にもふれながら、服を着たり、ペンイなどで遊んだりして外国の文化にふれたときの、わたしの思いに気づかせる。

体験活動と結びつけながら、様々な国や人々に対する関心をもたせ、日本の文化とともに様々な国や人々の文化を理解し、尊重しようとする意欲を培う。

3 配慮事項

「外国人児童生徒にかかわる教育指針」(平成13年発行小学校低学年用『ほほえみ』活用の手引き P.49～掲載)の趣旨に沿って指導する。

4 展開例

学 習 内 容	指 導 上 の 留 意 点
<p>1 パクさんやパクさんの国について知る。</p> <p style="text-align: center;">交流会で、どんなことをしましたか。</p> <p>・チョゴリ ・ペンイ</p>	<p>・導入として、教師自身の外国での体験を話して興味づけをしたり、児童から知っていることを補足的に出させたりしてもよい。</p> <p>・チョゴリ、ペンイの実物を用意すると、さらに効果的である。(資料編 P.48 参照) ・外国の文化にはじめて接する児童もいるので、出会いを肯定的に受け止められるように留意する。</p>
<p>2 みんなが夢中になったわけについて話し合う。</p> <p style="text-align: center;">みんなが楽しく、夢中になったのはどうでしょう。</p> <p>・コマ回しが楽しかったから。 ・パクさんがやさしかったから。 ・はじめてのことばかりだったから。</p>	<p>・外国の文化のすばらしさとともに、パクさんの温かい人柄についても目を向けさせるようにする。 ・服を着せてもらったり、ペンイなどで遊んだりしたわたしの思いに共感させたい。</p>
<p>3 パクさんにまた会えたらいいなと思ったわけについて話し合う。</p> <p style="text-align: center;">パクさんにまた会いたいと思ったのはどうでしょう。</p>	<p>・パクさんとの豊かな交流を心にとめさせるとともに、他の国の遊びなどを紹介して世界の国々にも興味をもたせる。</p>

22	分類	2 - -イ	資料名	さがして みよう	学年	2年	領域	生活
----	----	--------	-----	----------	----	----	----	----

1 ねらい

身の回りにあるさまざまな「人にやさしいもの」に気づく。

2 趣旨

私たちの身の回りには、高齢者や障害をもった人などに配慮した工夫が、いろいろなところで進められている。そのことに気づかせることにより、だれもが幸せに生活できる社会を築いていくことの大切さを感じ取らせる。

3 指導計画 全4時間

第1次 導入(本時)	1時間
第2次 「人にやさしいもの」さがし(生活科)	2時間
第3次 まとめ	1時間

4 配慮事項

本資料は、生活科の「わたしのまちたんけん」の導入として扱うことができる。まとめの学習では、見つける活動から、「あったらいいな」と思うものを考える活動に展開させることができる。私たちのまちにある「人にやさしいもの」も、それを生かすのは人であることに気づかせ、思いやりの心で他の人に接しようとする意欲を高めたい。

5 展開例

学 習 内 容	指 導 上 の 留 意 点
<p>1 虫めがねの中の写真を見て考える。</p> <p style="text-align: center;">(拡大写真を見て)これは、なんででしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シャンプーにはギザギザがある。 ・リンスにはギザギザがない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・写真を見て、想像したことを自由に出させたい。 ・実物を提示して、シャンプーとリンスであることを知らせる。 ・ギザギザのついている理由について考える。 ・ギザギザは、目が不自由な人のための「やさしいもの」であることに気づかせる。
<p>2 他の写真を見て「人にやさしいもの」について考える。</p> <p style="text-align: center;">「人にやさしいもの」を見つけましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・洗濯機の点字 ・スロープと手すり ・病院の廊下の色ライン ・ノンステップバス ・天井走行式リフトシステム 	
<p>3 これからの学習計画を立てる。</p> <p style="text-align: center;">「やさしいものさがし」の計画を立てよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家の中をさがしてみよう。 ・学校の中をさがしてみよう。 ・私たちのまちをさがしてみよう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・やさしさの工夫が生かされているか振り返らせることにより、これからの実践への課題とさせたい。 ・他にもやさしさが必要なことはないか、自分たちにできるやさしさは何かなど発展として考えさせてもよい。

23	分類	3 - -イ	資料名	ふれあいまつり	学年	2年	領域	道徳	4 -
----	----	--------	-----	---------	----	----	----	----	-----

1 ねらい

地域で受け継がれてきた文化や伝統のよさに気づくとともに、それを受け継いできた人々の思いや熱意にふれ、進んで地域の活動に参加しようとする。

2 趣旨

地域の活動に込められた人々の願いや思いにふれながら、愛着をもって地域の文化や生活に親しみ、地域の一員としての自覚と誇りをもって生きていこうとする意欲を養う。

地域のまつりに参加し、うどん作りを手伝うべくやわたしの変容から、地域の人々と心を通わせながら一緒に活動する楽しさに気づかせる。

地域をよくしようとしている人々の願いや生き方を知り、地域の活動に主体的に参加しようとする意欲を育てる。

3 配慮事項

この資料は、同じまつりに参加した二人の作文で構成している。まつりの賑わいや力強さ、うどん作りのおもしろさに感動したぼくが、知らず知らずのうちに一生懸命になっていった様子を前半で描き、後半では、うどん作りを大切にしてきたおばあさんたちのたくましさややさしさにふれたわたしが、地域の人たちのすばらしさに感動していった様子を描いている。

いろいろなコミュニティの形が存在することを踏まえ、地域の実態に応じて資料を扱うことが望ましい。

4 展開例

学 習 内 容	指 導 上 の 留 意 点
1 うどんを作っているときのぼくの様子について話し合う。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">うどん作りをしてからぼくはどう変わりましたか。</div>	<ul style="list-style-type: none"> ・挿絵から楽しいおまつりの様子を読み取らせる。 ・うどん作りの過程を補足しながら、「だんだん力が入ってきた」ぼくの様子に注目させるようにする。 ・「めんどうだな」から気持ちが変わっていった様子を捉えさせたい。
2 わたしの思いについて話し合う。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">どうしてわたしは、ニコニコ顔になったのでしょうか。</div> <ul style="list-style-type: none"> ・「みんなでだいにしてきたもの」 ・「一番おいしい」 ・「やさしいあじ」 などを手がかりにして考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・おばあちゃんの言葉や、みんなが一生懸命に取り組む姿から、人々が大切にしようとしていることへの思いに気づかせる。 ・地域のすばらしさや、人々のたくましさに共感させたい。
3 地域の行事や活動について話し合う。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">みんなが大切にしている行事や活動をさがしてみましよう。</div>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域のいろいろな行事や活動をみつめさせる。 ・地域の活動に参加している児童がいる場合は、その姿を肯定的に捉えさせる。

5 参考

人権啓発ビデオ「大地の母 きくゑ」(2005年・共和教育映画社)

24	分類	2 - - ア	資料名	あったかいね	学年	2年	領域	生活
----	----	---------	-----	--------	----	----	----	----

1 ねらい

自分や弟、妹の誕生のときの様子を通して、命の大切さとともに命のつながりに気づく。

2 趣旨

自分の成長には、家族や周囲の人々などの支えがあることに気づかせる。

自分の命が、父母や祖父母などつながっており、かけがえのないものだ気づかせ、自分を大切にしようとする気持ちを育てる。

3 配慮事項

家庭の事情などで、幼い頃の様子が分からない児童に配慮する。

自分からお父さんやお母さん、そして、おじいちゃんやおばあちゃんと世代をさかのぼらせながら、命のつながりと込められた願いに気づかせたい。

おなかの赤ちゃんの動きから、小さな命の躍動を感じ取らせたい。

4 展開例

学 習 内 容	指 導 上 の 留 意 点
<p>1 資料を読んで、わたしが不思議だなと思ったことについて話し合う。</p> <p style="text-align: center;">お母さんのおなかにふれて、なぜ不思議だなと思ったのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おなかの中の赤ちゃんがだんだん大きくなっているから。 ・赤ちゃんが成長しているから。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分が体験したことや知っていることを発表させる。 ・自分の命もお母さんのおなかの中で大切に育てられた命であることに気づかせる。
<p>2 「早く生まれたらいいな、赤ちゃん」と思った時のわたしの気持ちについて話し合う。</p> <p style="text-align: center;">このときのわたしの気持ちについて考えてみましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・うれしい。 ・早く赤ちゃんに会いたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分も周囲の多くの人に期待されて、生まれてきたことに気づかせる。
<p>3 自分の誕生のことについて話し合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の誕生時の家族の喜びに気づかせる。 ・自分の命が、かけがえのないものであることに気づかせる。

5 参考

指導にあたって、『「命の大切さ」を実感させる教育への提言（改訂版）』（平成19年 兵庫県教育委員会発行）などの活用を図りたい。

幼稚園用教育資料『ほほえみ』『たいせつないのち』における「たいせつないのちのカード」の活用もできる。

展開例での参考内容

自分が赤ちゃんだった時のことについて発表する。

- ・小さかった頃のことや聞いたことや覚えていることを発表する。

調べる活動を通して、自分の成長や回りの人の温かい支えに気づく。

《自分が小さかった頃のことや知りたいと思うことを調べに行こう。》

- ・家族や祖父母、近所の人などにインタビューする。

- ・乳幼児の生活用品やおもちゃを調べる。

- ・乳幼児の食べ物を食べて、味を確かめる。

- ・アルバムなどで幼かった頃の自分を見る。

自分や友だちの成長を知り、それぞれに違いのあることに気づく。

自分の成長の様子を本などにまとめる。

25	分類	2 - - ア	資料名	小さな カレンダー	学年	2 年	領域	道徳	3 -
----	----	---------	-----	-----------	----	-----	----	----	-----

1 ねらい

阪神・淡路大震災のときの様子から、命の大切さや生きることの大切さに気づく。

2 趣旨

阪神・淡路大震災で、親しかったみっちゃんを失った作者のつらさや悲しみに共感させながら、かけがえのない命について考えさせる。

みっちゃんとの楽しかった思い出を通して、生きていることの喜びや命の大切さに気づかせるとともに、みっちゃんに歌を届けた学級の友だちの思いに共感させる。

3 配慮事項

防災教育副読本『あすにいきる』を用いて、阪神・淡路大震災の被害の状況や、学校も地域の人々の避難所として重要な役割を果たしていたことなどについての理解を深めておきたい。

(参考『ぼくの町がなくなってしまった』『とてもこわかったよ』『ありがとう』等)

4 展開例

学 習 内 容	指 導 上 の 留 意 点
1 阪神・淡路大震災について知る。	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が知っている阪神・淡路大地震の様子を発表させ、教師が東日本大震災と関連づけたり、写真等を用いたりするなど、補足説明する。
2 やっと学校が始まった時のことについて話し合う。	<ul style="list-style-type: none"> ・みっちゃんの姿が見えなかったときの作者の不安な気持ちを感じ取らせる。 ・みっちゃんがなくなったという事実を知ったときの驚きや悲しみに共感させる。
みっちゃんがなくなったと聞いて、作者はどんな気持ちだったでしょう。	
<ul style="list-style-type: none"> ・なくなったことが信じられない。 ・会えなくなって悲しい。 	
2 みっちゃんと過ごした日々を思い出している作者の気持ちを考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・みっちゃんとの楽しいできごとが、やがて悲しみに変わっていく作者の心の変化をとらえさせる。
みっちゃんのことを思い出している作者は、どんな気持ちだったのでしょうか。	
<ul style="list-style-type: none"> ・一緒に遊んだことが楽しかった。 ・みっちゃん、ありがとう。 ・もう遊べないことが信じられない。 	
3 「小さな カレンダー」を歌っている作者の、みっちゃんへの思いについて考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・みっちゃんのことを思いながら、心を込めて歌っている作者の思いに共感させる。
作者は、どんな気持ちで歌を歌っているのでしょうか。	
<ul style="list-style-type: none"> ・歌声がみっちゃんまで届いてほしい。 ・みっちゃんのことを忘れない。 ・天国でも元気でいてほしい。 	

5 参考

指導にあたって、「心の教育緊急会議」の提言の趣旨を生かしながら、「あすにいきる(平成9年)」や「震災を生きて」(平成8年)、「命の大切さ」を実感させる教育への提言(改訂版)(平成19年)などの活用を図りたい。

26	分類	2 - - ア	資料名	ぞうれっしゃが やってきた	学年	2年	領域	国語
----	----	---------	-----	---------------	----	----	----	----

1 ねらい

挿絵を手がかりに、事柄の順序や場面の移り変わりに注意して文章を読み取り、登場人物の気持ちや情景を想像することができる。

象の命を守りぬいた園長さんの生き方から、戦争の悲惨さとともに、生命や平和の大切さが分かる。

象に会いたいという子どもたちの願いをかなえるために努力した人々のやさしさが分かる。

2 趣旨

原文は長文なので、8場面の絵話に再構成している。指導にあたっては、原文で補足しながら豊かに想像させる。

挿絵も手がかりにしながら、戦争の犠牲となって失われていった動物たちの命や、生きのびた2頭の象のかけがえのない命などを捉えさせ、生命の尊さについて考えさせる。

象を命がけで守ろうとした園長さんたちの努力や、「ぞうれっしゃ」でやってきた子どもたちの喜びから、生命や平和の大切さについて感じ取らせる。

児童にとって親しみやすく、楽しい場所である動物園での悲しいできごとを通して、戦争の悲惨さに気づかせ、生命や平和を大切にしようとする心を育てる。

3 指導計画 全2時間

第1次

挿絵を見て、場面の移り変わりに沿って、戦争の悲惨さや命の大切さについて考える。

第2次

象の命を守りぬいた動物園の人たちの努力や象に出会えた子どもたちの喜びから、平和の大切さに気づく。

4 配慮事項

戦時中の学校や地域の様子などを各校の実情に合わせて補足説明することにより、児童に戦争の関係性を意識させる。

5 展開例

【第1次】

学 習 内 容	指 導 上 の 留 意 点
1 動物園の好きな動物について自由に話し合う。	・動物園に動物がいなくなった時代があったことを紹介し、話への興味をもたせる。
2 挿絵を見ながら「ぞうれっしゃが やってきた」の話を聞く。	・ゆっくりと気持ちを込めて読み聞かせる。
3 場面ごとの人物の気持ちを考える。 ・象との別れを惜しむお姉さんたちとそれを見守る園長 ・幼い子どもを残して、戦争に行くお父さん ・毒入りのえさで、トラを殺さなければならぬ飼育係 ・キーコとアドンを死なせてしまった飼育係 ・軍馬のえさを命がけで盗んだ飼育係	・日本中の人々が戦争に巻き込まれた時代であったことを伝える。 ・戦争により動物たちの命が奪われたことをしっかりと捉えさせる。 ・園長さんや飼育係の人たちの苦しい立場や心情をつかませたい。 ・軍馬のえさを抜き取って象に与える行動が命がけであったことを知らせる。
4 心に残ったことを話し合う。	
	どんなことが心に残りましたか。

【第2次】

学 習 内 容	指 導 上 の 留 意 点
<p>1 挿絵を見ながら、もう一度「ぞうれっしゃが やってきた」を読む。</p> <p>2 場面ごとに読み進める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マカニーとエルドが生き残ったときの飼育係や園長の気持ち ・東京の子ども議会から手紙が届いた理由 ・象列車に乗る子どもたちの気持ち <p>3 心に残ったことを話し合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・気持ちを込めて読み聞かせる。 ・自分たちの命をかけて守りぬいた象が生き残った喜びに迫らせる。 ・日本中の動物園で同じように動物が犠牲になったことを捉えさせる。 ・長い戦争のため象を見たことがない子どもがたくさんいたことを伝え、子どもたちの喜びに共感させる。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">心に残ったことを話し合しましょう。</div>	
	<ul style="list-style-type: none"> ・戦争の悲惨さと、生命や平和の大切さを考えさせる。

6 参考

原文 平成13年発行小学校低学年用『ほほえみ』活用の手引き P.41 ~ 参照

資料編

1	資料名	おおかぜに ふきとばされないようにね	学年	1・2年
---	-----	--------------------	----	------

1 ねらい

身近な動植物に親しみ、それらがかけがえのない命を持っていることに気づき、命を大切にしようとする。

2 趣旨

この資料は、激しい風雨の日にアオバズク（フクロウ目フクロウ科）の親が翼を精一杯広げて、雛を守ろうとしている場面である。我が身を挺して雛を守りぬこうとしている姿から、親鳥の愛情や命の尊さに気づかせる。

3 参考

親鳥や雛鳥を不安にさせないことで、命を大切に、生き物との共生に配慮されながら撮影された、ということ念頭に置いて指導する。

命の尊さ、親の愛情に気づくという観点から、「あったかいね」の指導と関連させて扱うことも可能である。「あったかいね」は、自分の家族をもとに命の大切さやつなかりに気づかせていく資料であるが、動物の家族も同じように親が子を守り、愛情を注いでいることに気づかせ、命の尊さについて考える機会とすることもできる。

15	資料名	なかよし すごろく	学年	1・2年
----	-----	-----------	----	------

1 ねらい

友だちとコミュニケーションを図りながら楽しくゲームをする。

2 趣旨

ゲームをする中で、お互いの個性にふれあい、自分や友だちのことについて知ったり、友だちとコミュニケーションをとったりすることの楽しさを味わわせる。

このすごろくには、「自分のことを知ってもらう」「友だちを知る」「自分のよさに気づく」「友だちのよさに気づく」「自分の夢を語る」「体を使ったコミュニケーションやふれあいをする」などの視点を含めている。

ゲームを通して自尊感情の育成を図る。また、友だちの新たな一面を知り、相互理解を深めることや、コミュニケーション力を高める。

3 配慮事項

グループ編成では、言葉や体で表現することが苦手な児童など、一人一人の特性に応じた配慮をする。また、自分たちでルールを作るなど、楽しく遊べるよう工夫させてもよい。

編成は1グループ4～5名程度、活動は30分程度を目安に作成している。

事前準備として、図工科の学習でコマやサイコロを制作することや、事後指導として、活動を通して培われた力や分かり合えたことを学級づくりをはじめ生活場面に生かすことが効果的である。

27	資料名	「4ひく1は」	学年	1・2年
----	-----	---------	----	------

1 ねらい

国や生活環境が違って、真剣に学んでいる同年齢の子どもたちの姿に気づく。

2 趣旨

世界にはさまざまな環境の中で子どもたちが生活しているということを知るとともに、国や地域が違って精一杯学んでいるという新たな発見から、外国の子どもたちの存在をより身近に感じさせる。

3 配慮事項

物質的に豊かであるとか貧しいということではなく、その環境の中で精一杯学習している子どもたちの表情や眼差しに注目させる。

4 参考

1993年にペニン共和国（アフリカ）で撮影された写真。

「ペニン」は、(財)日本ユニセフ協会での呼び名であり、教科書（地図帳）では、「ペナン」と表記している。

ペニンは、アフリカ大陸の中部の大西洋ギニア湾北岸に位置し、国土の大半は熱帯気候である。人口約870万人（2008年）、出生時平均余命61年（2008年）、成人識字率40.8%（2005-2008年）

（上のデータは

http://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/shiryo/kuni/10_databook/pdfs/05-37.pdf から）

【参 考】

11 うれしいね たのしいね

3年生からの「総合的な学習の時間」へつなげていくこともできる。

「ボランティア活動ハンドブック」（平成21年3月 兵庫県社会福祉協議会ひょうごボランティアプラザ）なども参考としたい。

資料に表されているもの（例）

- < 環境 >
 - ・ 公園でゴミを拾っている。
 - ・ 公園で落ち葉を掃いている。
 - ・ 川のごみを拾ってきれいにしている。
 - ・ 鳥の巣箱をかけている。
 - ・ 学校でそうじをしている。
 - ・ 学習園で水やり・花の苗植えをしている。
- < 福祉 >
 - ・ 車椅子を押している。
 - ・ 目の不自由な人を手助けしている。
 - ・ アイマスク体験をしている。
 - ・ 手話で話している。
 - ・ 公民館で手話を学んでいる。
 - ・ 入浴の介助をしている。
 - ・ ノンステップバスに乗っている。
 - ・ 盲導犬がいる。
 - ・ 杖をついている人がいる。
 - ・ 松葉杖をついている人がいる。
 - ・ 給食配送サービスをしている人がいる。
 - ・ 募金活動をしている人がいる。

- < 国際理解 >
 - ・ 学校で英語を学習している。
 - ・ 外国の人とインターネットで話している。
 - ・ 外国の人に案内をしている。
- < 異年齢交流 >
 - ・ いろいろな友だちと仲良く遊んでいる。
 - ・ 小さい子のお世話をしている。
 - ・ 高齢者と一緒に将棋、ゲートボール、凧あげをしている。
- < 情報 >
 - ・ 外国の人とインターネットで話している。
 - ・ 公民館でパソコン教室が開かれている。
- < そのほか >
 - ・ 横断歩道で子どもたちを見守っている。
 - ・ 男女ともに野球の練習をしている。
 - ・ 絵本の読み聞かせをしている。
 - ・ 献血をしている。

21 パクさんと いっしょに

用語解説

< チョゴリ >

韓国・朝鮮の民族衣装で、男の人が着るものを「パジ・チョゴリ」、女の人が着るものを「チマ・チョゴリ」という。

< ペンイ >

直径約 5 cm、高さ約 6 cm の木製のコマを、長さ約 40 センチの棒につけた約 50cm の布で、コマの胴をたたいて回す遊び。

< コンノリ >

日本の双六のようなもの。数がついている約 30cm ほどの棒を投げて、その合計数で進む。

参考資料

「国際理解に役立つ世界の遊び アジアの遊び 1」(平成 10 年 ポプラ社)など
子ども多文化共生センター

県立国際高等学校(芦屋市新浜町 1-2)敷地内にある兵庫県教育委員会の施設。子ども多文化共生教育に関わる相談や、上記の書籍や玩具、民族衣装の貸出し等を受け付けている。

TEL : 0797 - 35 - 4537 <http://www.hyogo-c.ed.jp/mc-center>

平成 13 年発行小学校低学年用『ほほえみ』P.56 の「4 ひく 1 は」などを参考に、外国の子どもたちのことにもふれたい。

22 さがして みよう

用語解説

< ノンステップバス >

バスの乗降口に段差がなく、車椅子に乗ったまま昇降ができるように工夫されたバス。

県内におけるノンステップバスの導入率は 40.9% で、全国第 6 位である。(平成 22 年度末現在)

< 天井走行式リフトシステム >

室内での水平移動のためのレール式移動装置。

< 盲導犬同伴可マーク > < 介助犬同伴可マーク >

平成 24 年 3 月現在、どちらのマークも、表示が < 補助犬同伴可 > に統一されている。

身体障害者補助犬同伴の啓発のためのマーク。身体障害者補助犬とは、盲導犬・介助犬・聴導犬のことをいう。平成 14 年に身体障害者補助犬法が施行され、現在では公共の施設や交通機関はもちろん、デパート、レストラン、ホテルなどの民間施設でも身体障害者補助犬が同伴できるようになった。

委 員 名 簿

(五十音順)

1 人権教育資料検討委員会

	岡崎まゆみ	兵庫県立幼児教育センター 所長
	桂 正孝	宝塚大学 教授
	新保真紀子	神戸親和女子大学 教授
委員 長	鈴木 正幸	神戸大学 名誉教授
	中部 剛	神戸新聞社編集局 社会部デスク
	野口 啓子	神戸市立神戸幼稚園 園長
	藤原 信子	兵庫県人権擁護委員連合会 副会長
	溝口 繁美	県教育委員会 教育次長
副委員長	宮井 和子	西宮市立甲子園浜小学校 校長
	向井 利隆	神戸市教育委員会人権教育課 首席指導主事

2 人権教育資料作成委員会 (小学校部会)

	足立 馨	三田市立高平小学校 教諭
	井上 敏雄	姫路市教育委員会人権教育課 管理指導主事
	井上 基広	たつの市立揖保小学校 教諭
	日下 芳宏	淡路市立郡家小学校 教諭
	桜井 克典	尼崎市立名和小学校 教諭
	橘 純一郎	加古川市立氷丘小学校 教諭
	富本 水子	神戸市立長田小学校 教諭
部 会 長	中川 典也	三木市立平田小学校 主幹教諭
	藤本 芳弘	姫路市立津田小学校 教諭
	松浦明日香	篠山市立城南小学校 教諭
	山本 浩一	県教育委員会事務局義務教育課 指導主事
挿絵委員	秋山 道広	芦屋市立宮川小学校 教諭
	郷良佳代子	神戸市立妙法寺小学校 教諭
	内藤久身子	宝塚市立美座小学校 教諭
	橋本 忠和	姫路市立手柄小学校 主幹教諭
	古橋 衛	豊岡市立三江小学校 教諭

委員の所属・職は平成24(2012)年3月現在

小学校低学年用教育資料

『ほほえみ』活用の手引き

平成24(2012)年3月発行

発行 兵庫県教育委員会
神戸市中央区下山手通5丁目10番1号

